

日本の
ひなた
宮崎県

統計でみる 宮崎県の農畜産業2025

令和8年3月
宮崎県農政水産部

目次

1. 本県農業の全体像

①自然・社会的条件	2
②全国における本県農業の位置づけ	3
③本県における農業の位置づけ	4
④農業産出額	5
⑤食料自給率	6

2. 担い手

①農家数等の推移	7
②新規自営就農者、女性認定農業者	8
③農業法人と雇用者、外国人材	9

3. 農地

①耕地面積、荒廃農地面積	10
②作付面積、農地集積	11
③基盤整備	12

4. 販売力の強化

①農畜産物の輸出	13
②食資源の高付加価値化	14

5. 環境に配慮した取組

①グリーン成長プロジェクトの推進	15
------------------------	----

6. 主な品目の生産

①米	16
②野菜	17
③果樹	18
④花き	19
⑤工芸作物	20
⑥肉用牛	21
⑦酪農	22
⑧豚	23
⑨ブロイラー	24
⑩採卵鶏	25

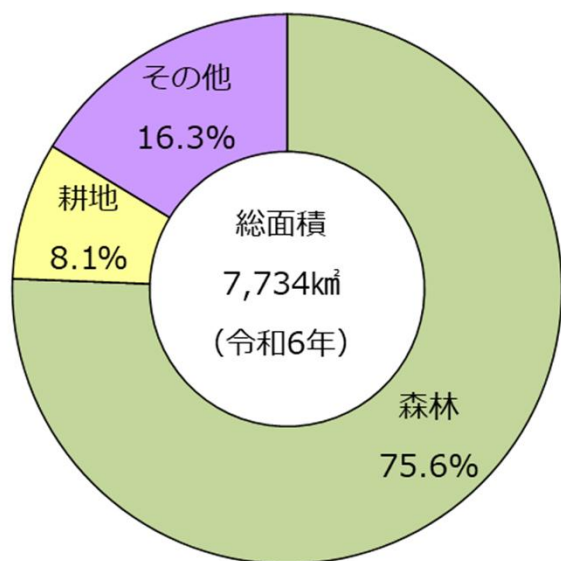
7. 地図でみる宮崎県の農畜産業

・ その他 関連する統計資料

1-①. 本県農業の全体像(自然・社会的条件)

- 総面積の7,734km²のうち、森林5,846km²と耕地625km²が大部分を占めています。
- 平均気温が高く、温暖な気候に恵まれ、日照時間は全国的にもトップクラスです。
- 一方、農地のほとんどが火山性特殊土壌で覆われ、生産性が低く、台風、集中豪雨などの自然災害が発生しやすい環境でもあります。
- 大消費地から遠隔地にあるなど、不利な条件もありますが、東九州自動車道や九州中央自動車道、国際化に対応した空港・港湾など、陸・海・空の総合交通網の整備が着実に進んでいます。

◆ 県土の面積分布



◆ 気候

日照時間	2,122時間	(全国 6 位)
平均気温	17.7℃	(全国 3 位)
降水量	2,626mm	(全国 2 位)

◆ 都市との距離



航空

・東京	90分	・福岡	40分
・名古屋	75分	・ソウル	90分
・大阪	60分	・台北	120分



鉄道

・博多	5時間14分 (407km) ※B&S	3時間15分
・小倉	4時間27分 (340km)	
・大分	2時間59分 (207km)	
・鹿児島	2時間8分 (126km)	



高速バス

・福岡	4時間19分
・熊本	3時間23分
・長崎	5時間17分



海路 (フェリー)

・神戸	12時間20分 (495km)
-----	-----------------

1-②. 本県農業の全体像(全国における本県農業の位置づけ)

- 農家数等の農業における人口は全国でも低い水準にありますが、令和6年の農業産出額は全国7位の3,725億円となっています。
- 耕種部門では、きゅうり(1位)、スイートピー(1位)、マンゴー(2位)など全国上位の生産量を誇っており、畜産部門では、ブロイラー(2位)、豚(3位)、肉用牛(3位)と、いずれも全国トップクラスの飼養頭羽数となっています。

◆ 主要指標の全国シェア

	単位	年(年度)	宮崎県	全国	全国比	全国順位
総人口	千人	令2	1,070	126,146	0.8%	35
総農家数	戸	令7	24,296	1,394,135	1.7%	26
農業経営体数	経営体	令7	16,929	836,054	2.0%	23
個人経営体数	経営体	令7	16,073	795,828	2.0%	23
主業経営体数	経営体	令7	5,652	190,054	3.0%	14
農業就業者数	人	令7	34,996	1,376,611	2.5%	18
基幹的農業従事者数	人	令7	23,976	1,036,228	2.3%	20
耕地面積	ha	令7	61,800	4,239,000	1.5%	20
	うち 田	ha	33,100	2,300,000	1.4%	28
	うち 畑	ha	28,600	1,939,000	1.5%	15
農業産出額	億円	令6	3,725	107,801	3.5%	7

【用語解説】

- 総農家 : 経営耕地面積が10a以上または農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
- 農業経営体 : 経営耕地面積が30a以上、または国が指定する基準以上の農業、または農作業受託の事業を行う者
- 個人経営体 : 個人(世帯)で事業を行う農業経営体(法人化して事業を行う農業経営体は含まない)
- 主業経営体 : 農業所得が主で、一年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体
- 農業就業者 : 基幹的農業従事者数+常雇い+団体経営体の役員・構成員数(年150日以上従事)
- 基幹的農業従事者 : 個人経営体における自営農業を主な仕事としている世帯員

◆ 主要品目の収穫量・飼養頭羽数及び全国シェア

	単位	年(年度)	宮崎県	全国	全国比	全国順位
米	千トン	令7	74.3	7,790	1.0%	33
ピーマン	千トン	令6	24.3	143	17.0%	2
さといも	千トン	令6	11.8	119	9.9%	2
きゅうり	千トン	令6	58.7	503	11.7%	1
スイートピー	千本	令5	25,946	47,037	55.2%	1
マンゴー	トン	令5	1,256	3,803	33.0%	2
茶(荒茶)	千トン	令6	2.6	74	3.6%	5
肉用牛	千頭	令7	248.4	2,595	9.6%	3
豚	千頭	令6	721.9	8,798	8.2%	3
ブロイラー	万羽	令6	2,816	14,486	19.4%	2

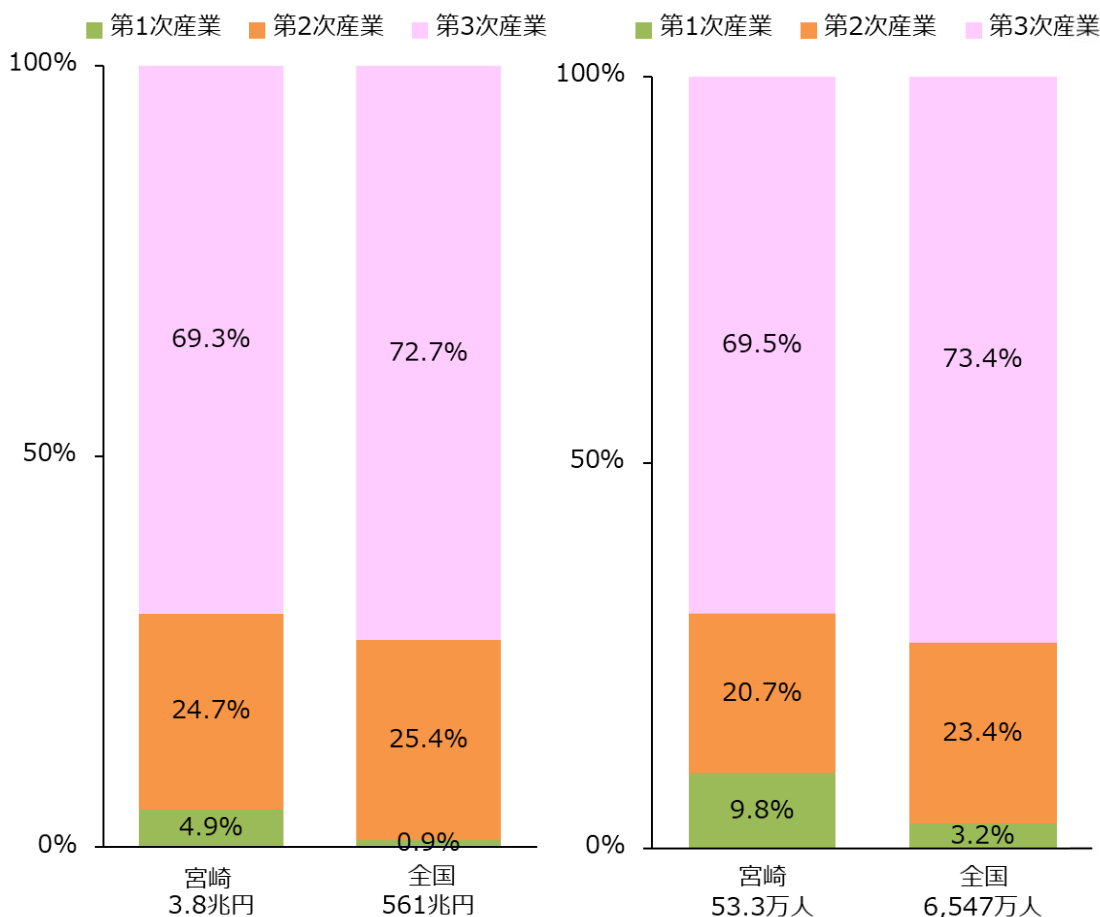
◆ 農業産出額の全国順位(R6)

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
北海道	鹿児島	茨城	千葉	青森	熊本	宮崎
14,817	5,689	5,494	4,533	4,119	4,116	3,725

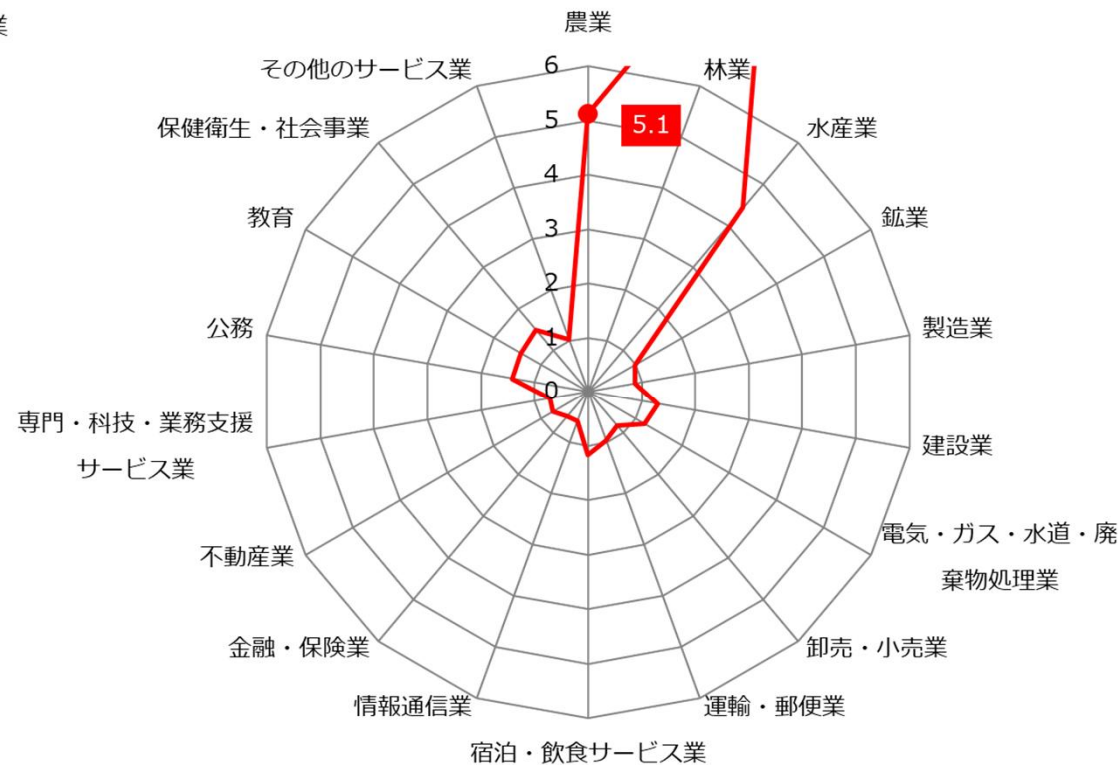
1-③. 本県農業の全体像(本県における農業の位置づけ)

- 県内総生産・就業人口ともに、第1次産業の占める割合が全国よりも高い比率となっています。
- 本県の農業の産業別特化係数は5.1（1に近いほど全国の産業構成に近い）と、他産業と比較して著しく高く、本県において農業が重要な役割を担っていることが分かります。

◆ 県内総生産(R4)、就業人口(R2)



◆ 産業別特化係数(R4)



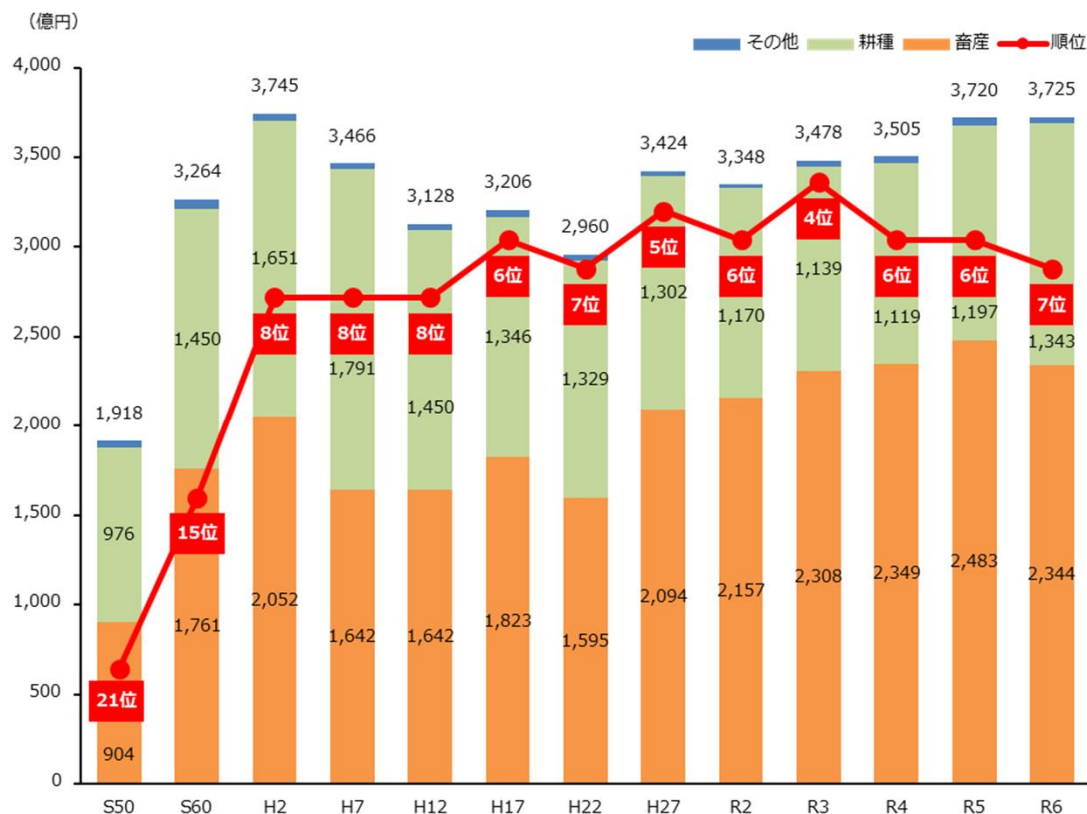
【用語解説】

- 特化係数：地域特性を数量的に示す指標。1.0に近いほど全国の産業別構成割合に近いことを意味し、1.0を超えていれば全国に比べてその産業に特化しているといえる

1-④. 本県農業の全体像(農業産出額)

- 本県の農業産出額は、平成前半期は下落傾向でしたが、口蹄疫からの復興に伴う畜産部門の伸びに支えられ平成24年度以降は年々増加傾向で、令和6年は3,725億円となりました。
- 令和6年農業産出額の内訳は畜産が62.9%、耕種が36.1%となっており、品目別では、鶏、肉用牛、野菜、豚の順で高い割合を占めています。

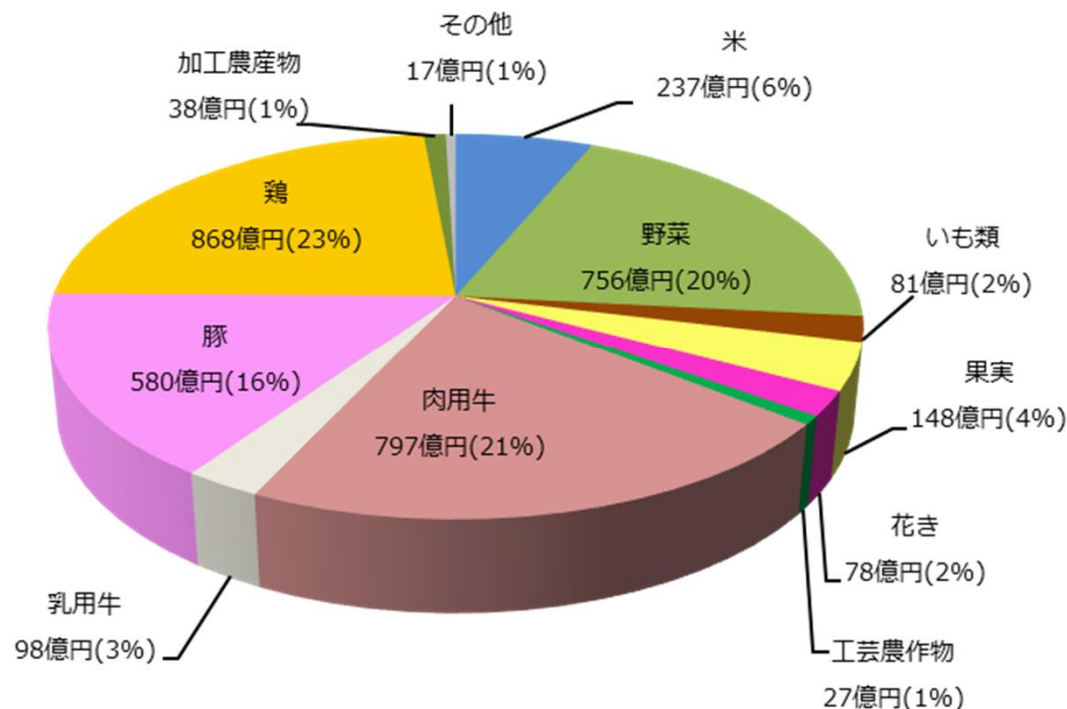
◆ 農業産出額の年次推移(R6)



【用語解説】

- 農業産出額 : 都道府県別の品目ごとの生産量に農家庭先販売価格を乗じて求めたもの
- 生産農業所得統計: 農業生産によって新たに生み出された付加価値のことで、農業産出額から物的経費(原価償却費を含む)を除き、生産に関わる補助金を加えたもの

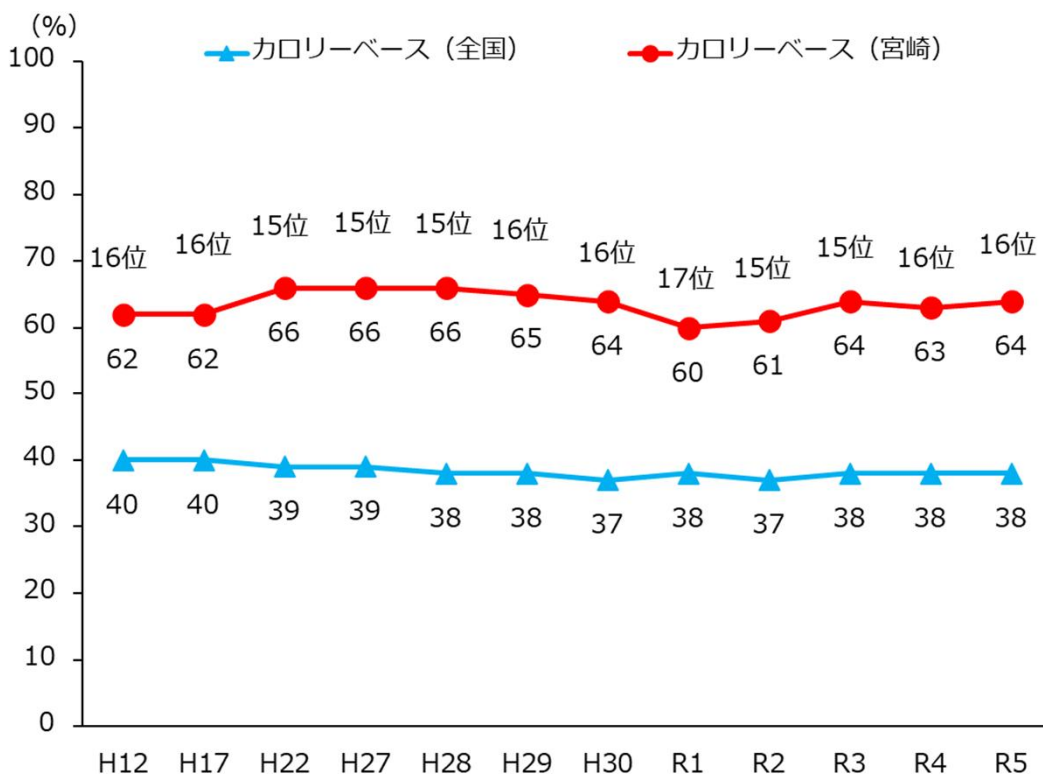
◆ 農業産出額の内訳(R6)



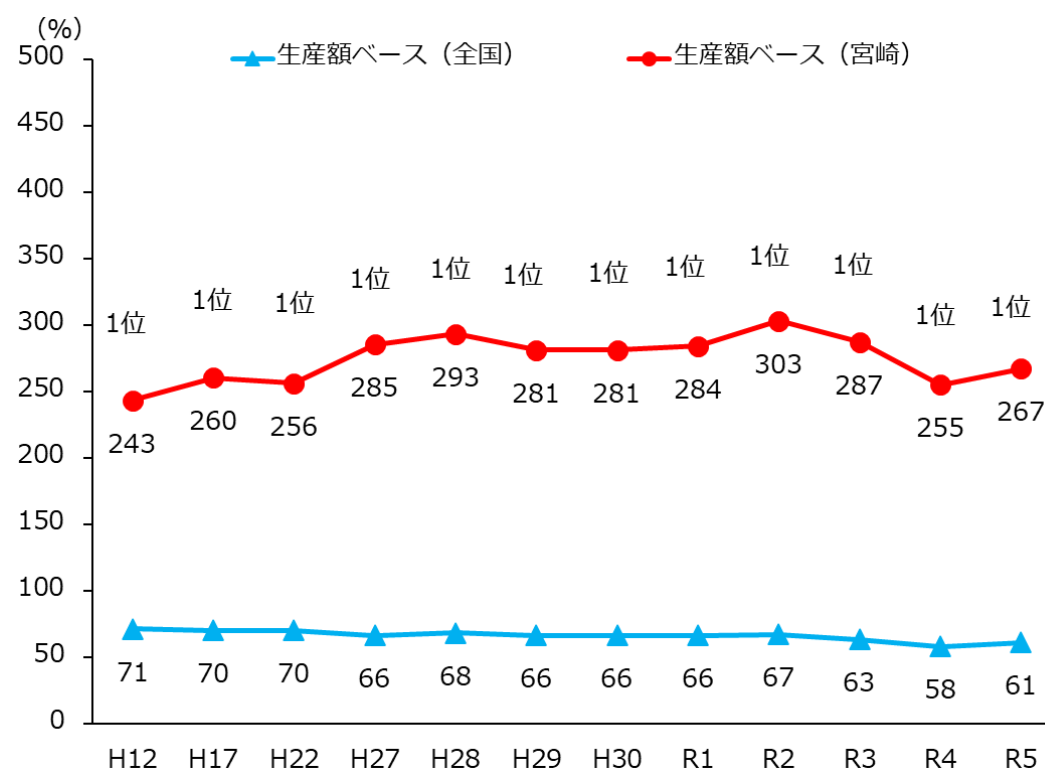
1-⑤. 本県農業の全体像(食料自給率)

- 本県の食料自給率は、カロリーベース64%（全国16位）、生産額ベース267%（全国1位）と、全国的にも高い水準の食料自給率を維持しています（令和5年概算値）。
- また、飼料自給率を反映しない食料国産率では、カロリーベース138%（全国7位）、生産額ベース324%（全国1位）となっています（令和5年概算値）。

◆ カロリーベース食料自給率の推移



◆ 生産額ベース食料自給率の推移



【用語解説】

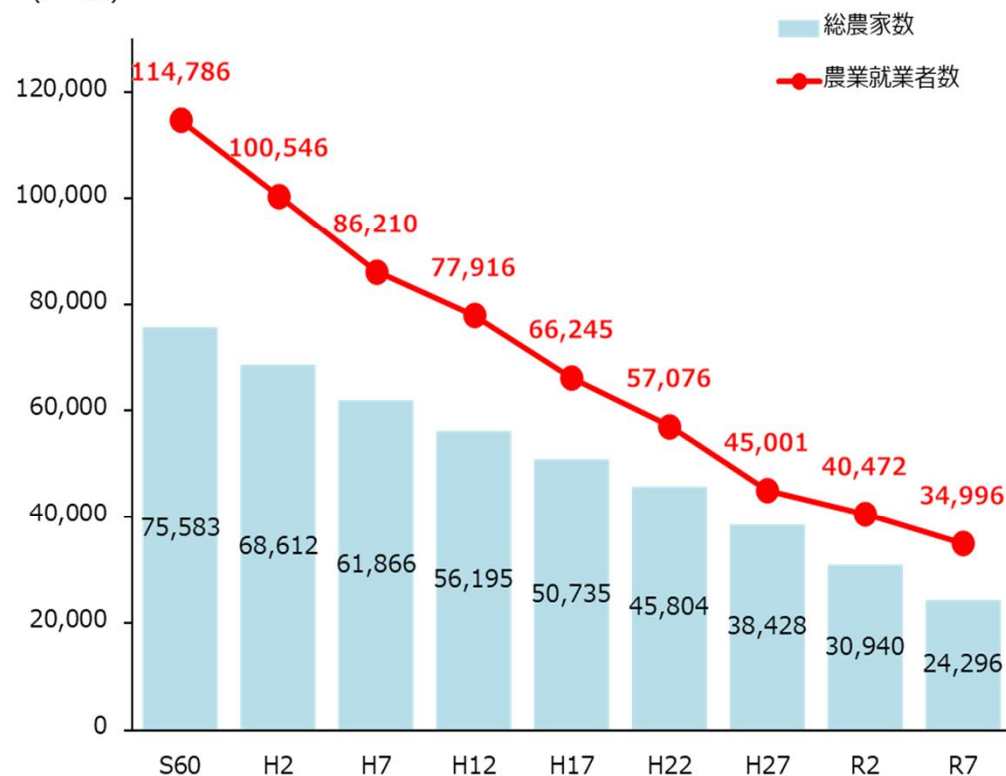
- 食料自給率：国内の食料供給に対する国内生産の割合を示す指標
- 食料国産率：畜産の飼料が国産か輸入かにかかわらず国内生産を評価するため、令和2年の食料・農業・農村基本計画で位置づけられた指標。

2-①. 担い手（農家数等の推移）

- 本県の農業に関わる人口は年々減少し、令和7年における総農家数は24,296戸、農業就業者数は34,996人になっています。
- 基幹的農業従事者数の6割以上は65歳以上であり、高齢化が進行しています。

◆ 総農家数と農業就業者数の推移

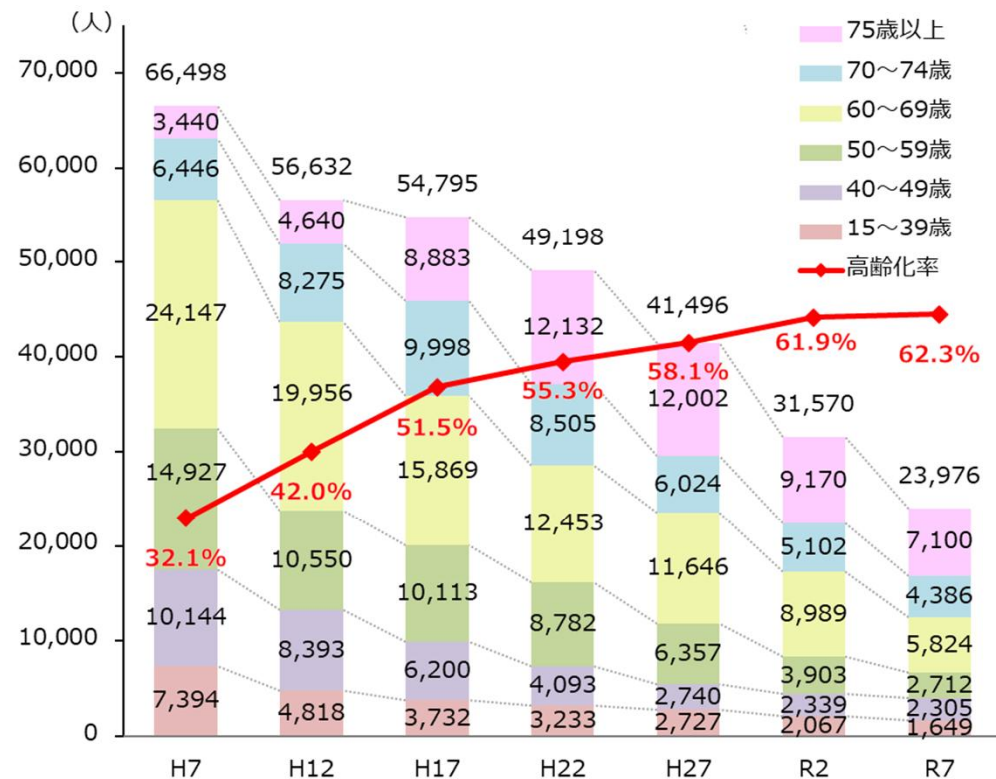
(戸・人)



【用語解説】

- ・総農家 : 経営耕地面積が10a以上または農産物販売金額が年間15万円以上の世帯
- ・農業就業者 : 基幹的農業従事者数＋常雇い＋団体経営体の役員・構成員数（年間150日以上従事）
ただし、H27までは農業就業人口を記載
- ・基幹的農業従事者 : 個人経営体における自営農業を主な仕事としている世帯員
ただし、H22までは販売農家のうちの世帯員

◆ 基幹的農業従事者数の推移



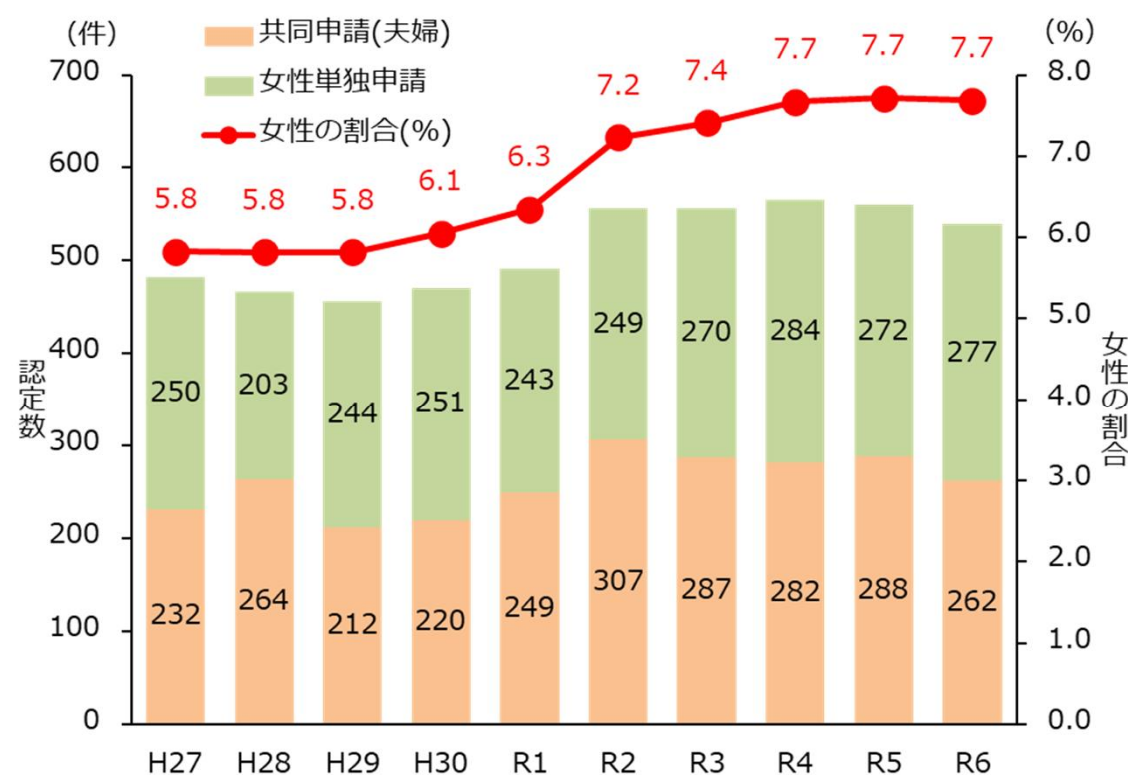
2-②. 担い手（新規自営就農者、女性認定農業者）

- 新規自営就農者は近年、減少傾向にあり、令和6年には117人（後継者65人、新規参入者52人）となりました。
- 本県における、認定農業者のうち女性の占める割合は年々増加し、令和6年には7.7%となりました。農業経営改善計画の夫婦共同申請等により、農業経営に関わる女性が増加しています。

◆ 新規自営就農者の推移



◆ 女性認定農業者の割合



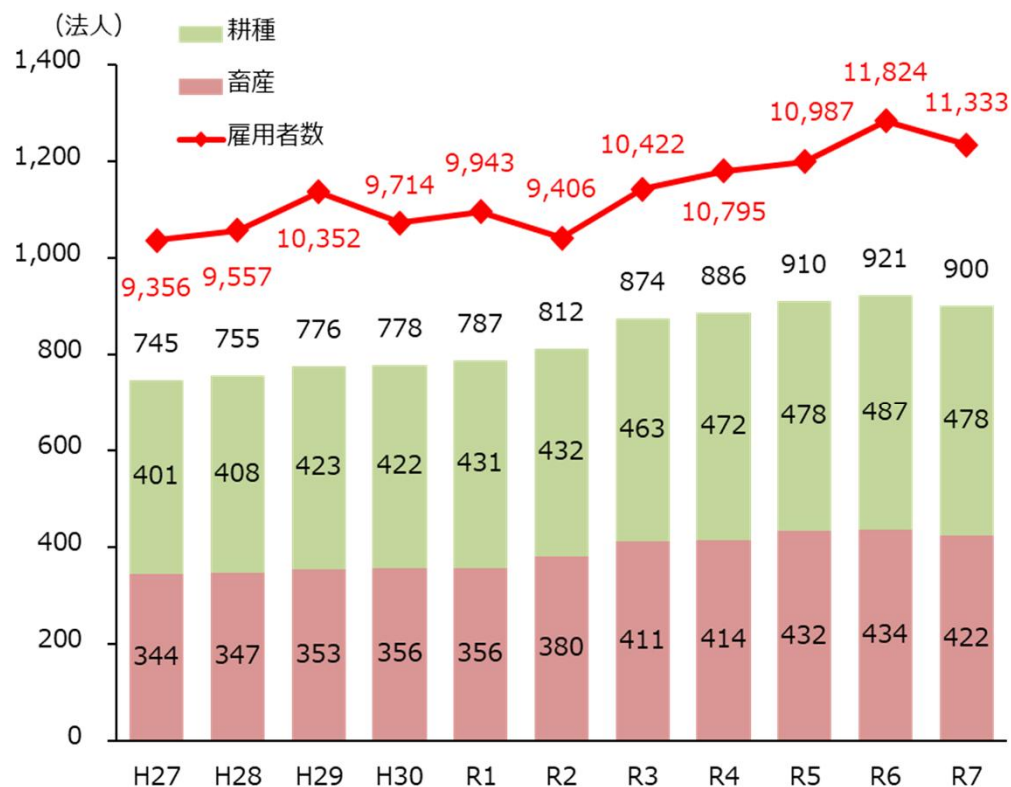
【用語解説】

・認定農業者：農業経営基盤強化促進法に基づき、経営を改善するための計画（農業経営改善計画）を作成し市町村から認定された者

2-③. 担い手（農業法人と雇用者、外国人材）

- 県内における農業法人数は、令和6年まで増加傾向にありましたが、令和7年では900法人（耕種478、畜産422）と減少し、それに伴い雇用者も減少しております。
- 農業分野の外国人数は令和7年には1,200人を超え、平成27年と比べ4倍以上に増加しています。特に、平成31年から始まった特定技能制度による人材数が増加傾向にあります。

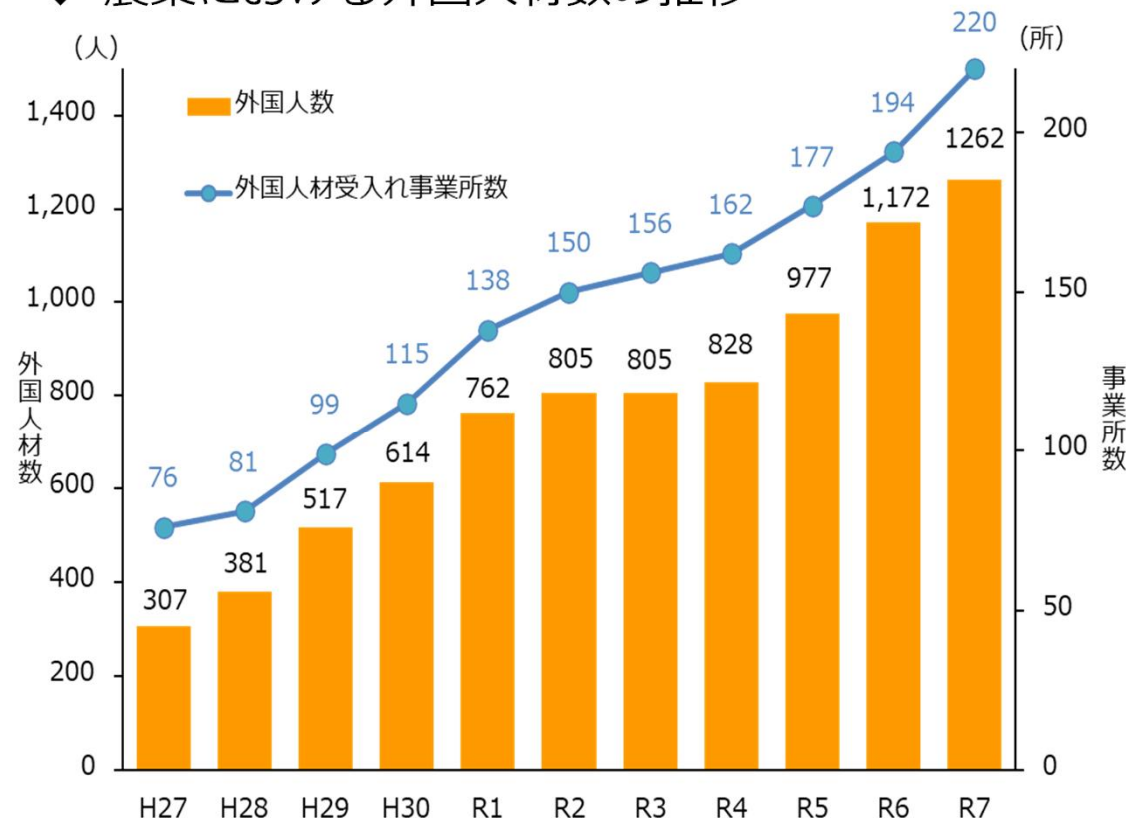
◆ 法人数と雇用者数の推移



【用語解説】

・特定技能：平成31年に開始した日本の在留資格で、人材を確保することが困難な状況にある産業上の分野において、一定の専門性・技能を有し即戦力となる外国人材を受け入れる制度

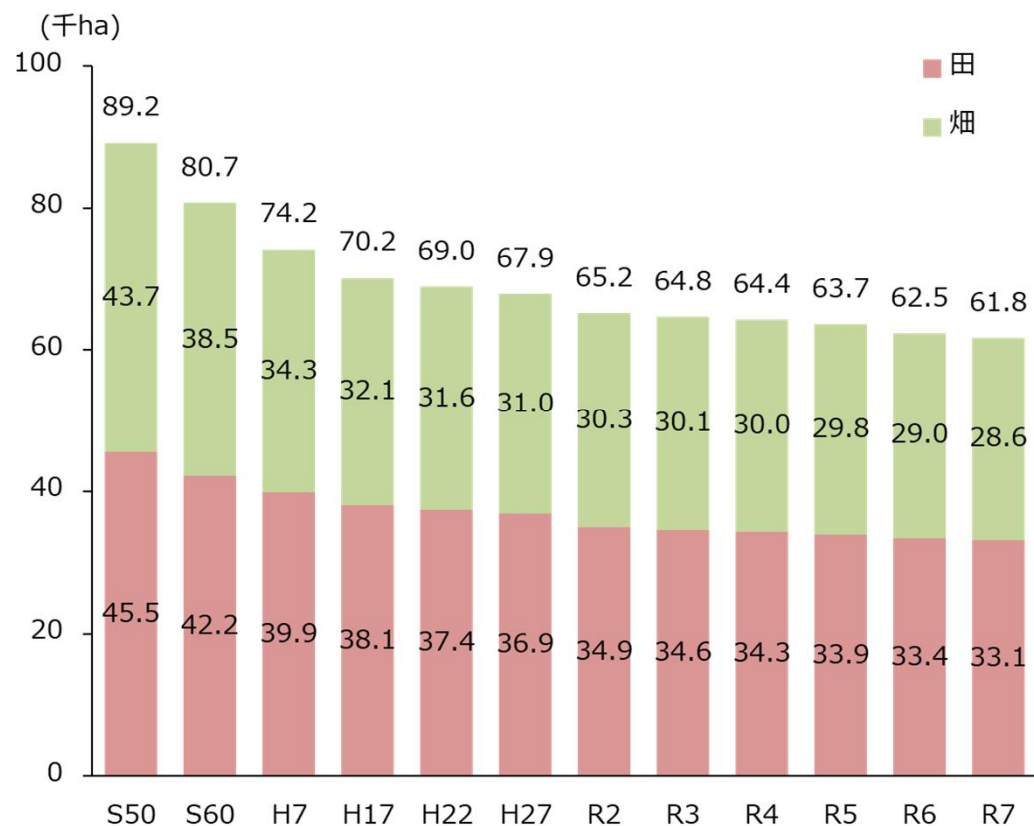
◆ 農業における外国人材数の推移



3-①. 農地（耕地面積、荒廃農地面積）

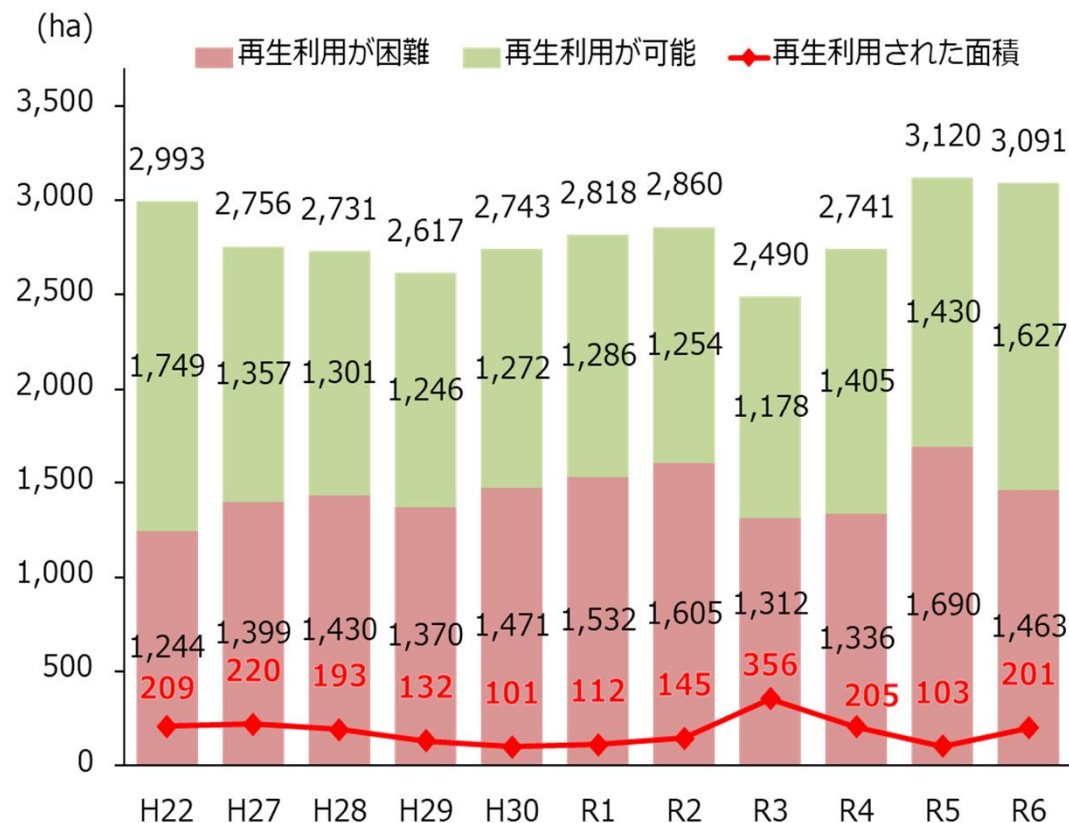
- 本県における令和7年7月15日現在の耕地面積は61,800haで、前年に比べ700ha減少しました。このうち、田は33,100haで、畑は28,600haとなっています。
- 一方で、荒廃農地の面積は徐々に増加しつつあり、令和6年においては3,091haとなりました。そのうち約半分は「再生利用が困難」とされる荒廃農地となっています。

◆ 耕地面積の推移



資料：農林水産省「作物統計調査」

◆ 荒廃農地面積の推移



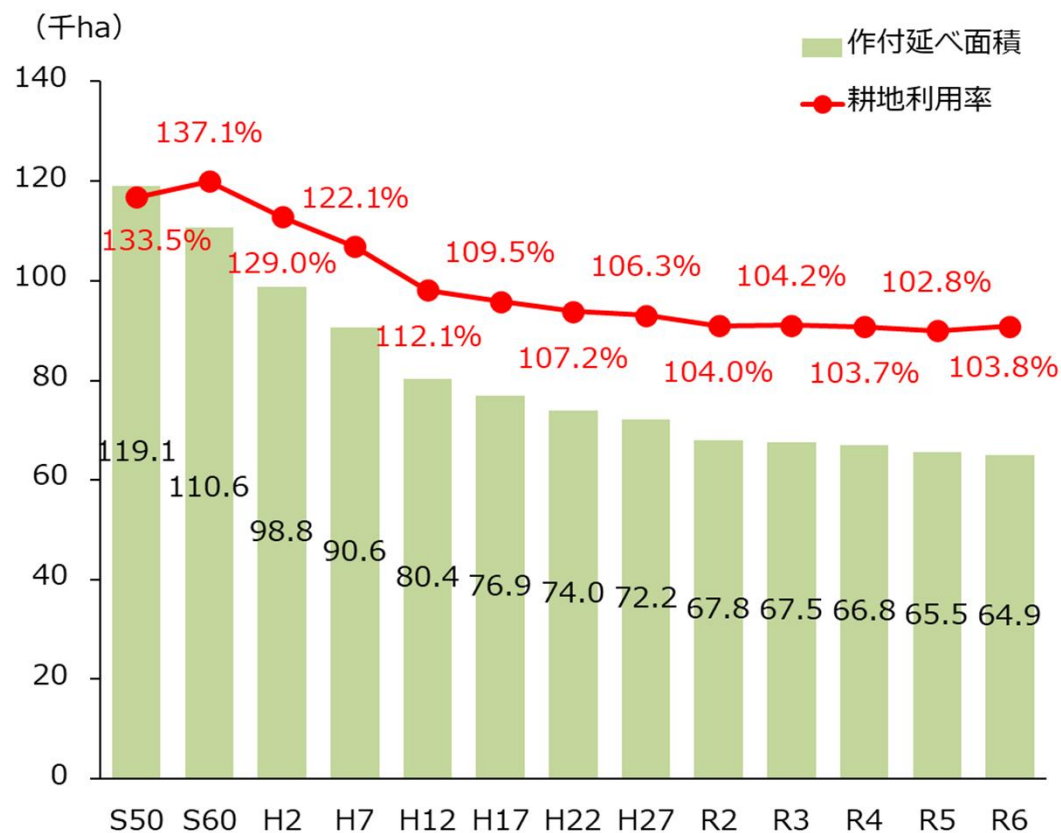
資料：農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査」

3-②. 農地（作付面積、農地集積）

- ・ 作付け（栽培）延べ面積は減少傾向にあるものの、耕地面積を「100」とした作付け延べ面積の割合である耕地利用率は横ばいであり、全国的にも高い利用率となっています。
- ・ 担い手※への農地集積率は、平成26年度から始まった農地中間管理事業の活用などにより徐々に増加しており、令和6年は58.6%となっています。

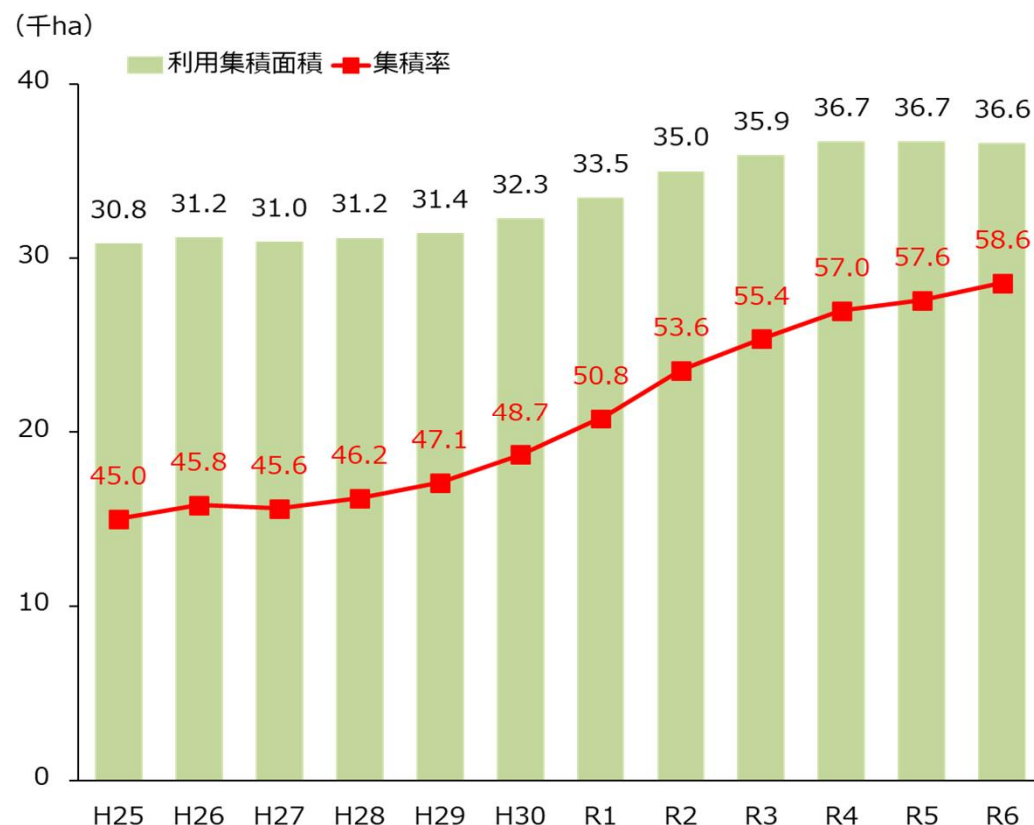
※ 認定農業者、認定新規就農者、基本構想水準到達者、集落営農

◆ 作付延べ面積と耕地利用率の推移



資料：農林水産省「作物統計調査」

◆ 担い手への農地集積率

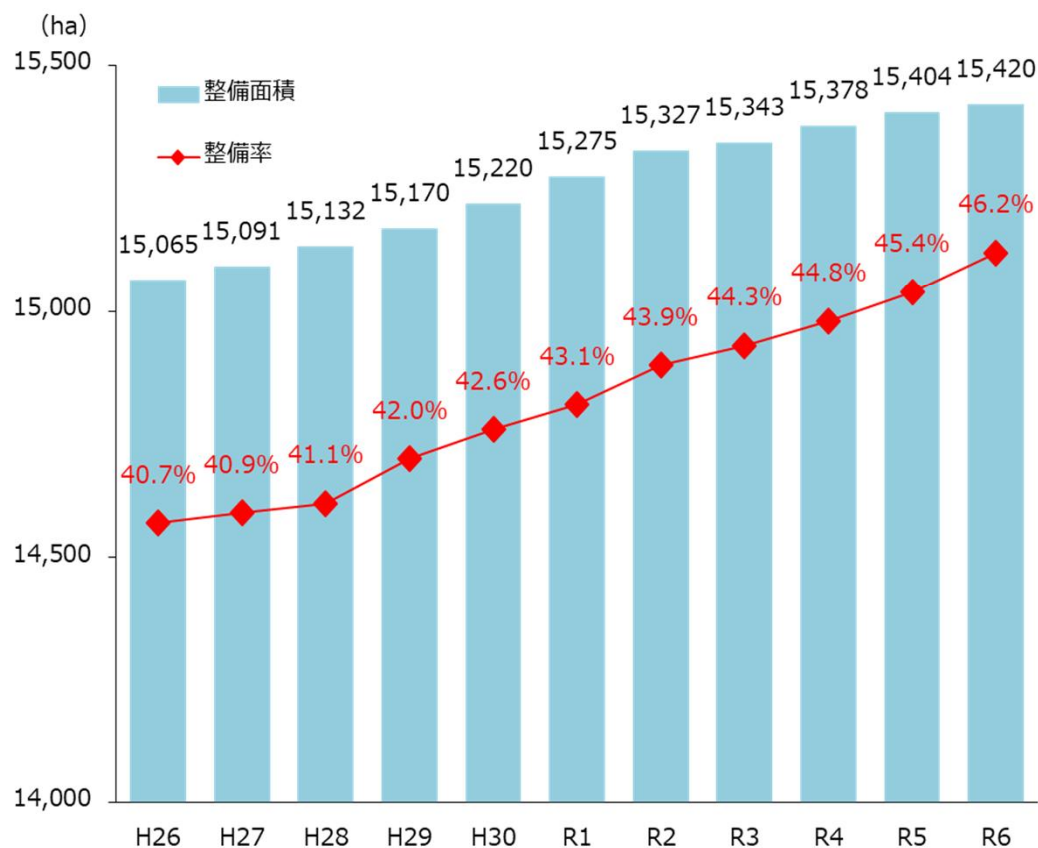


資料：宮崎県調べ

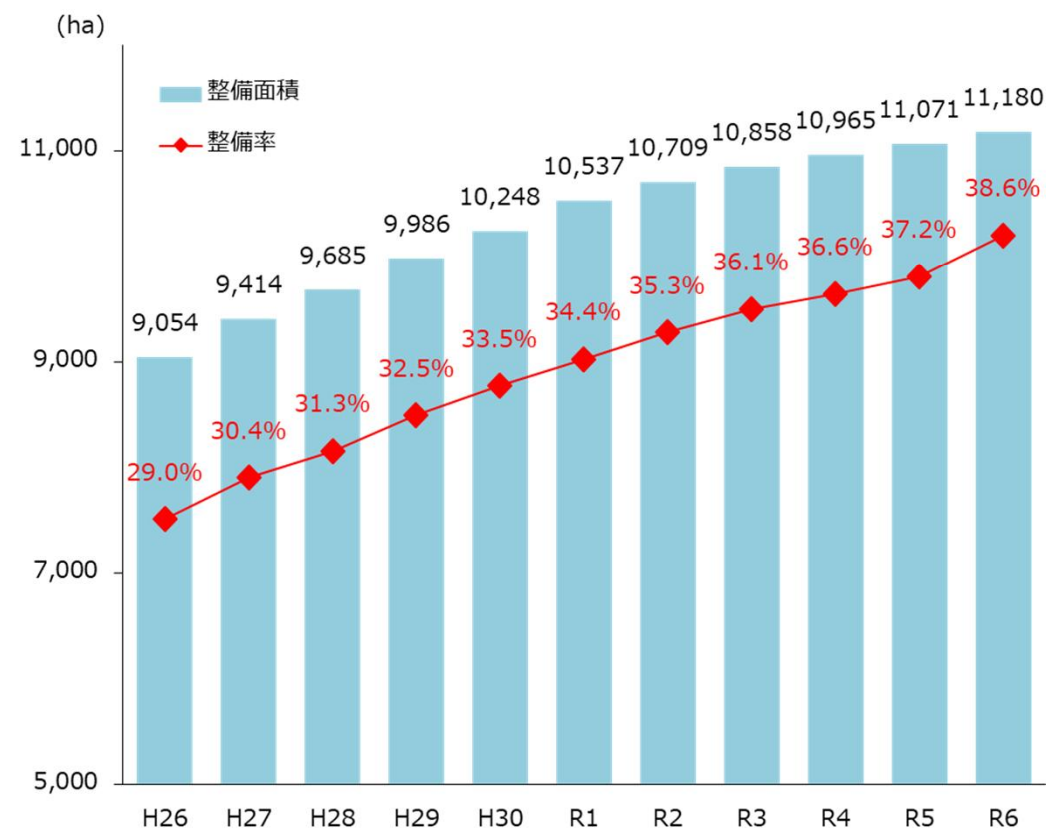
3-③. 農地(基盤整備)

- 県では「稼げる農業」の実現に向け、スマート農業等による生産性向上、農地の大区画化や汎用化、畑かん施設整備等の基盤整備を進めています。
- 本県における令和6年度の水田ほ場、畑かん施設の整備面積はそれぞれ15,420ha、11,180haと年々増加しています。

◆ 水田ほ場整備面積の推移



◆ 畑かん施設整備面積の推移



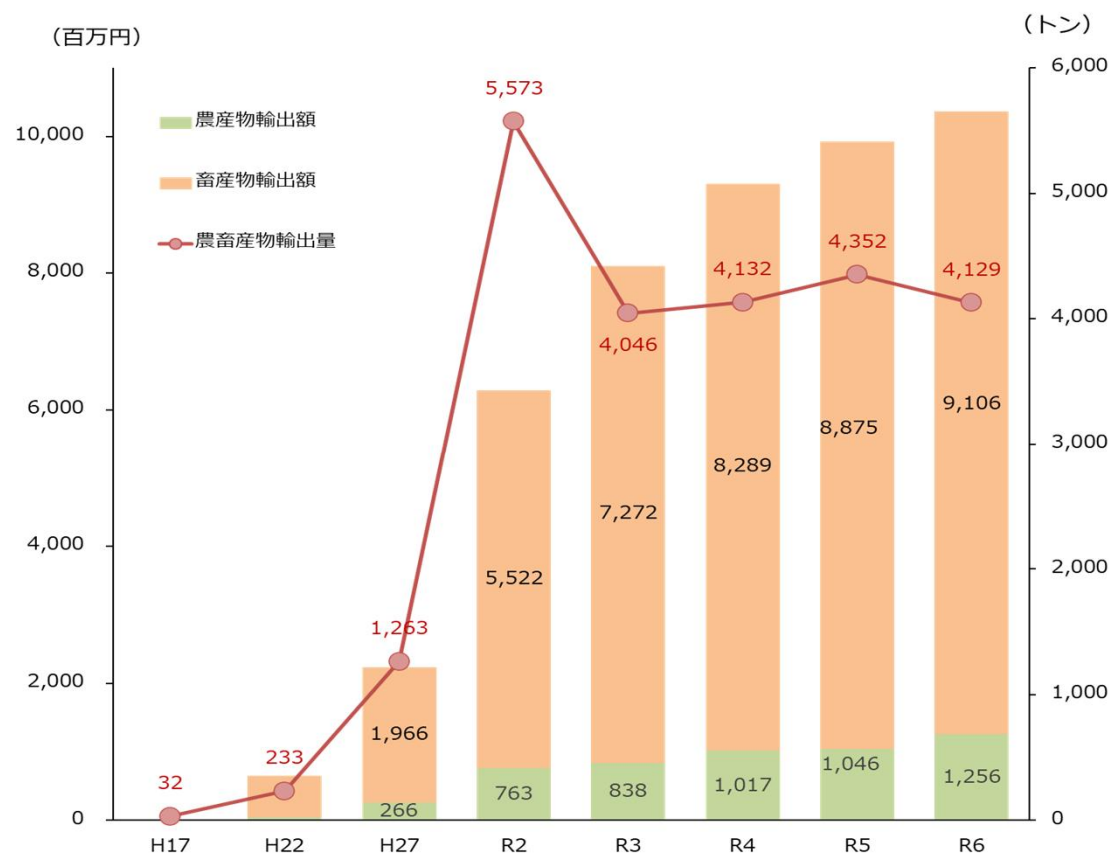
【用語解説】

・畑かん：畑地かんがいの略で、ダムや貯水池及びパイプライン等の人工的に築造された施設により、畑の農産物が水を必要とするときに供給するシステム

4-①. 販売力の強化（農畜産物の輸出）

- 人口減少等に伴う国内マーケットの縮小が見込まれる中、県では「みやざきグローバルプラン（第2期）」に基づき、今後販路として期待される国外マーケット（主にアジア）の消費ニーズや規制等に対応した産地育成や取引の拡大を支援しています。
- 令和6年度の農畜産物輸出額は農産物が12億5,600万円、畜産物が91億600万円となり、輸出額の大部分を牛肉が占めています。

◆ 本県農畜産物の輸出実績推移



◆ 品目別(R6、農畜産物)

	農産物					畜産物				計
		かんしょ	茶	花き	その他		牛肉	鶏卵	その他	
数量(ト、千本)	1,795	1,205	290	983	300	2,334	1,425	634	275	4,129
金額(百万円)	1,256	430	531	69	226	9,106	8,833	180	93	10,361

注：表示単位未満を四捨五入しているため合計値が一致しない。農産物の合計は、花きを除く。

◆ 国別・地域別(R6、農畜水産物)

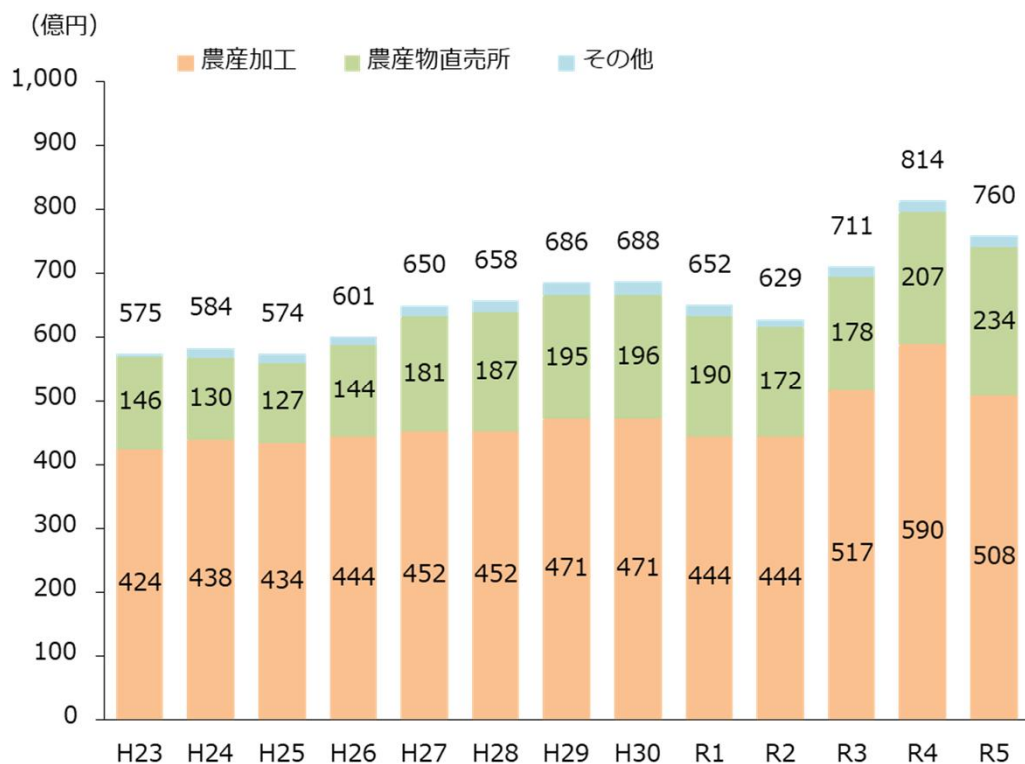
	アジア					アジア以外				計
		香港	シンガポール	台湾	その他		アメリカ	EU	その他	
数量(トン)	4,185	1,531	260	703	1,691	1,549	702	480	367	5,733
金額(百万円)	6,706	2,007	806	3,244	650	5,423	3,254	1,141	1,027	12,128

注：表示単位未満を四捨五入しているため合計値が一致しない。数量の合計は、花きを除く。

4-②.販売力の強化(食資源の高付加価値化)

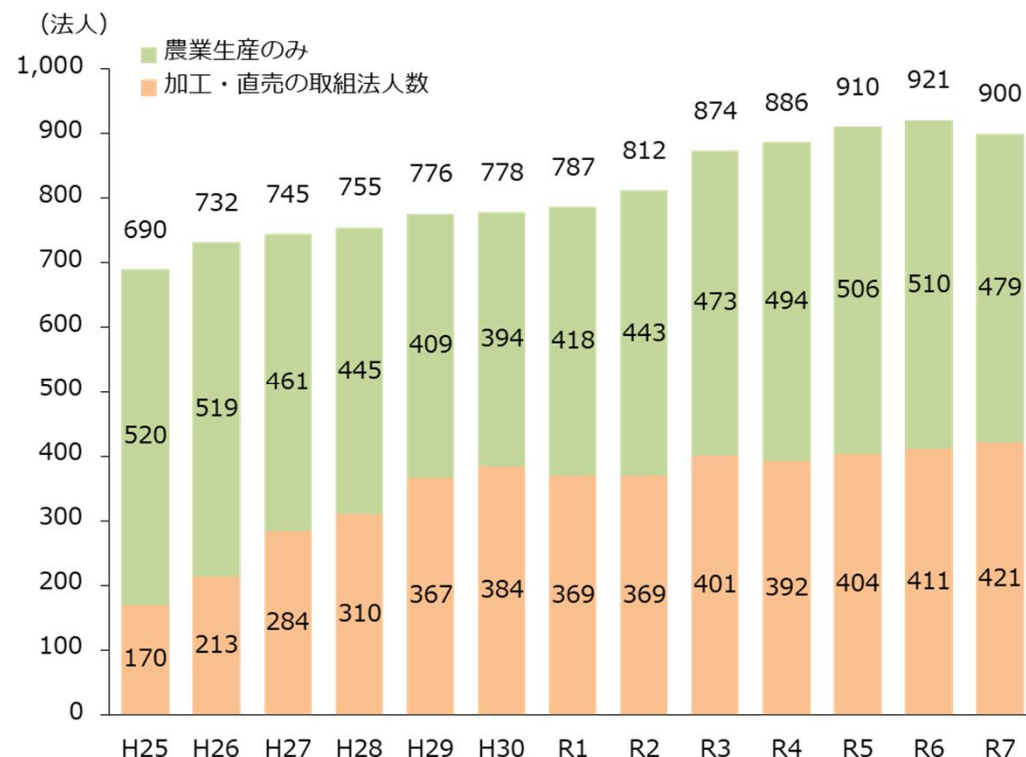
- 食資源の高付加価値化につながる農産加工や農産物直売所等の年間販売額は、令和5年は760億円となり、前年に比べ減少しました。そのうち、農産物直売所の年間販売額は令和2年から増加傾向にあり、過去最高の234億円となりました。
- また、農業法人における加工や直売の取組数は増加傾向にあり、令和7年は421法人と法人全体の5割弱を占めています。

◆ 農産加工や農産物直売所等の年間販売額



注：調査対象は農産加工、農産物直売所、観光農園、農家民宿、農家レストランの年間総販売(売上)額

◆ 加工や直売に取り組む農業法人数

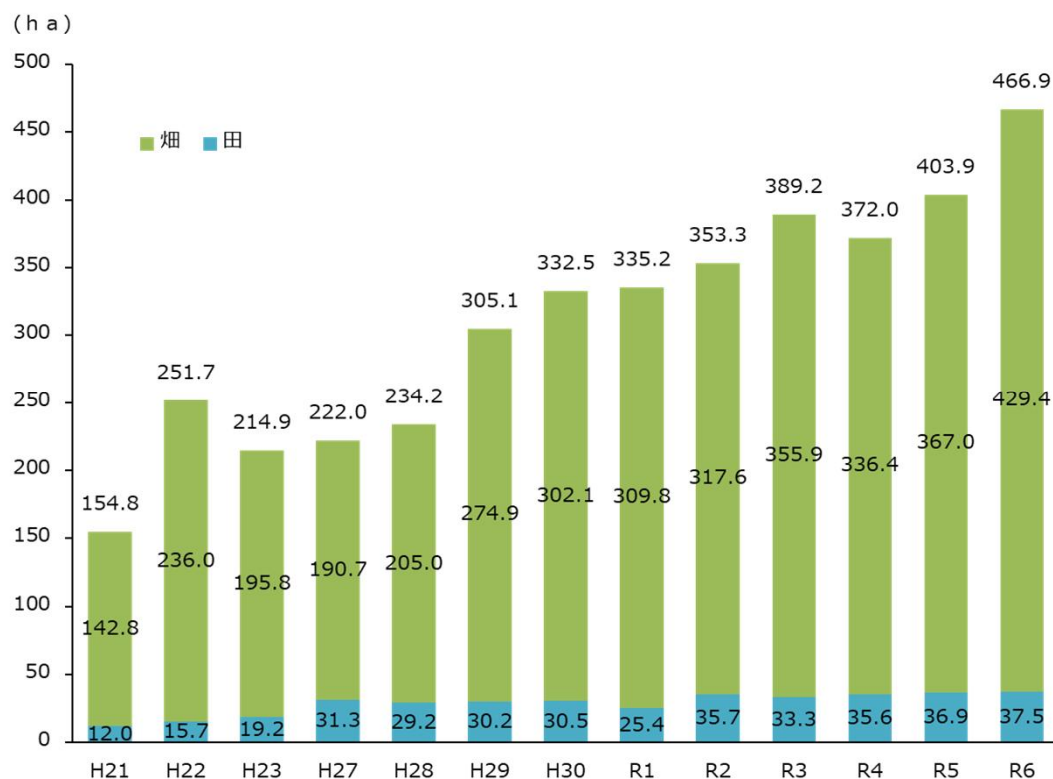


注：県農業法人実態調査における法人総数、加工・直売に取り組む法人数

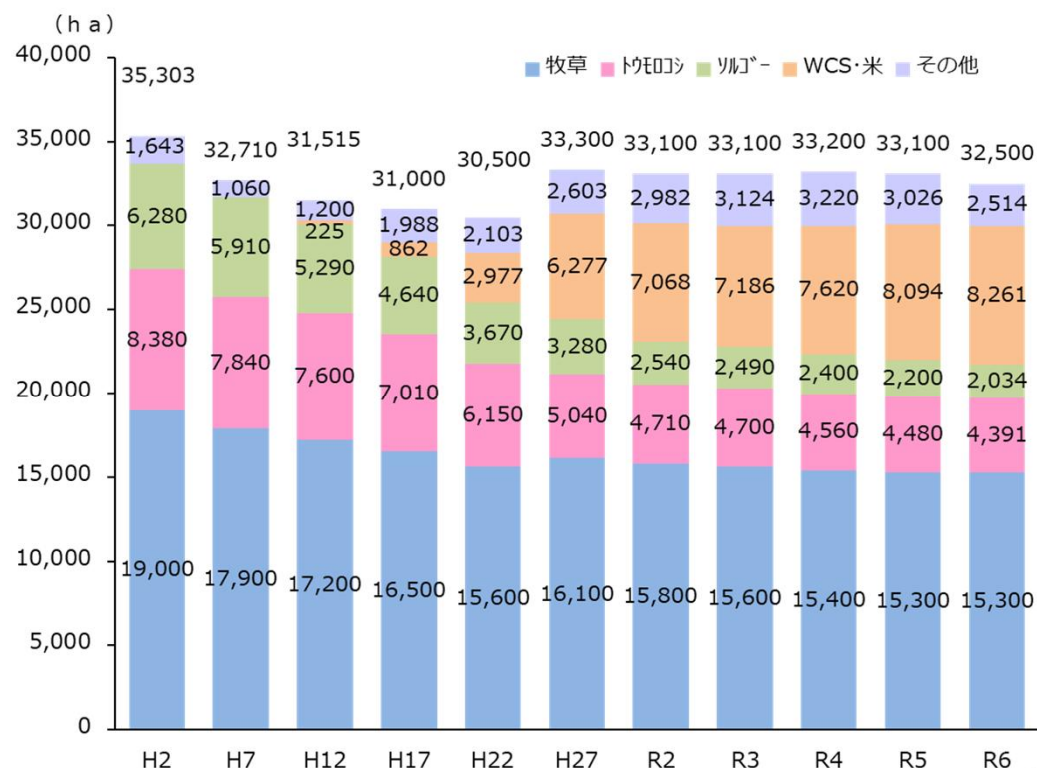
5-①. 環境に配慮した取組（グリーン成長プロジェクトの推進）

- 有機JASの認証面積は茶を中心に年々増加しており、令和6年の田と畑の合計面積は、過去最高の467haです。
- 県では、国のみどりの食料システム戦略や第八次宮崎県農業・農村振興長期計画に基づき、持続可能な食料システムの構築に向け、化学肥料・農薬の使用低減や有機農業を推進しています。
- 飼料作物については、輸入粗飼料価格の高止まりもあり、水田を活用した飼料用米や飼料用稲（WCS）の面積が増加しているものの、畜産農家戸数の減少や高齢化の影響により総作付け面積は33,000ha前後で推移しています。

◆ 有機JAS認証面積の推移



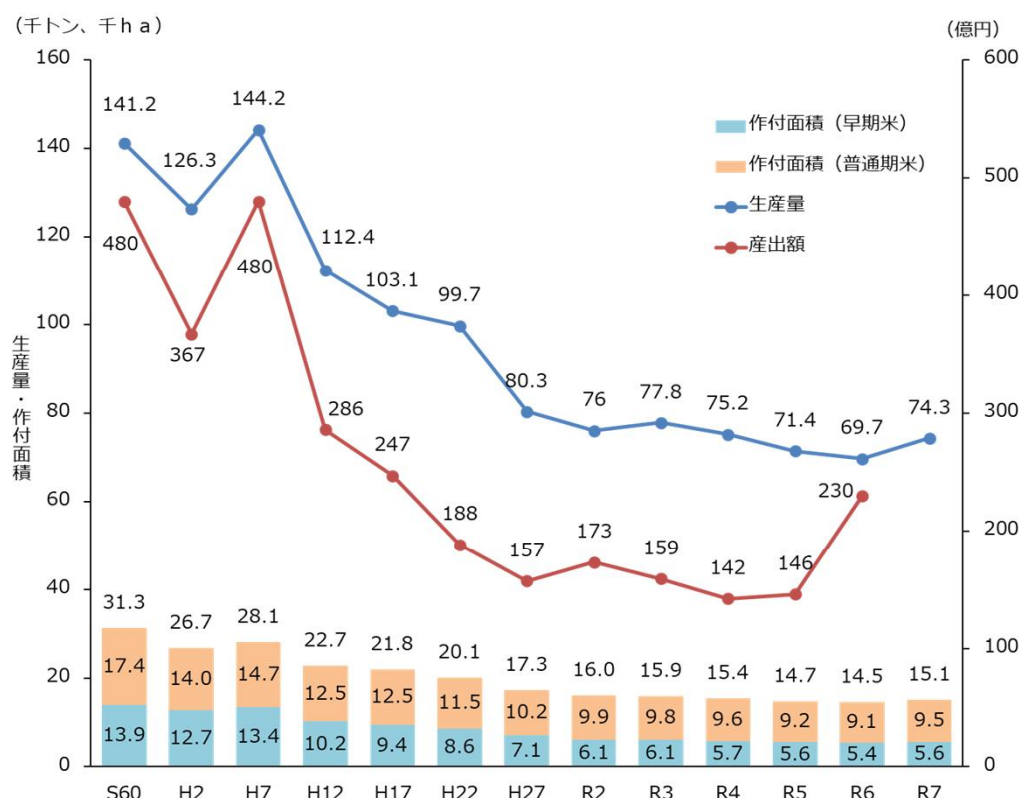
◆ 飼料作物の作付面積の推移



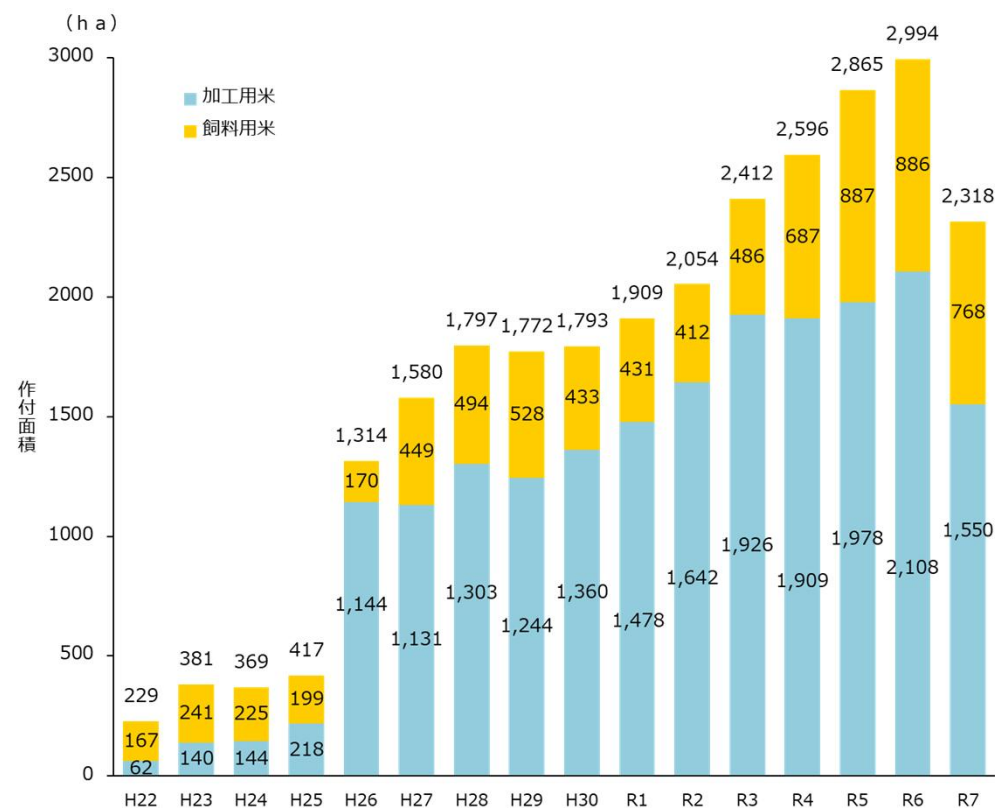
6-①. 主な品目の生産(米)

- 本県の水稲は早期と普通期に大別され、「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」を中心に生産しています。
- 水稲の作付面積、生産量は年々減少していましたが、米価高騰により令和7年の作付面積は15,100ha、生産量は74,300トンに増加しました。
- 一方で、酒造業や畜産業の需要に応じた生産を進めている加工用米及び飼料用米の作付面積は前年に比べて減少し、令和7年の作付面積は、加工用米が1,550ha、飼料用米が768haとなりました。また、令和6年の産出額は230億円で前年に比べ増加しました。

◆ 水稲の作付け面積、生産量、産出額の推移



◆ 加工用米・飼料用米の作付け面積の推移

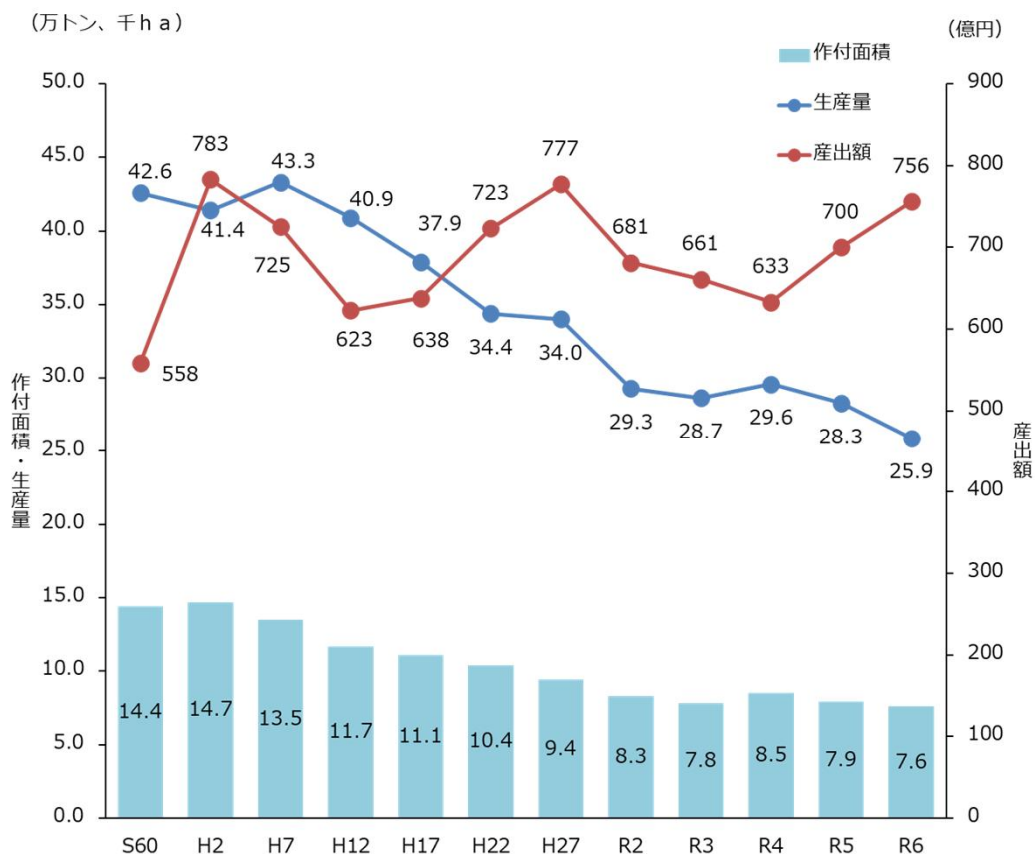


6-②. 主な品目の生産(野菜)

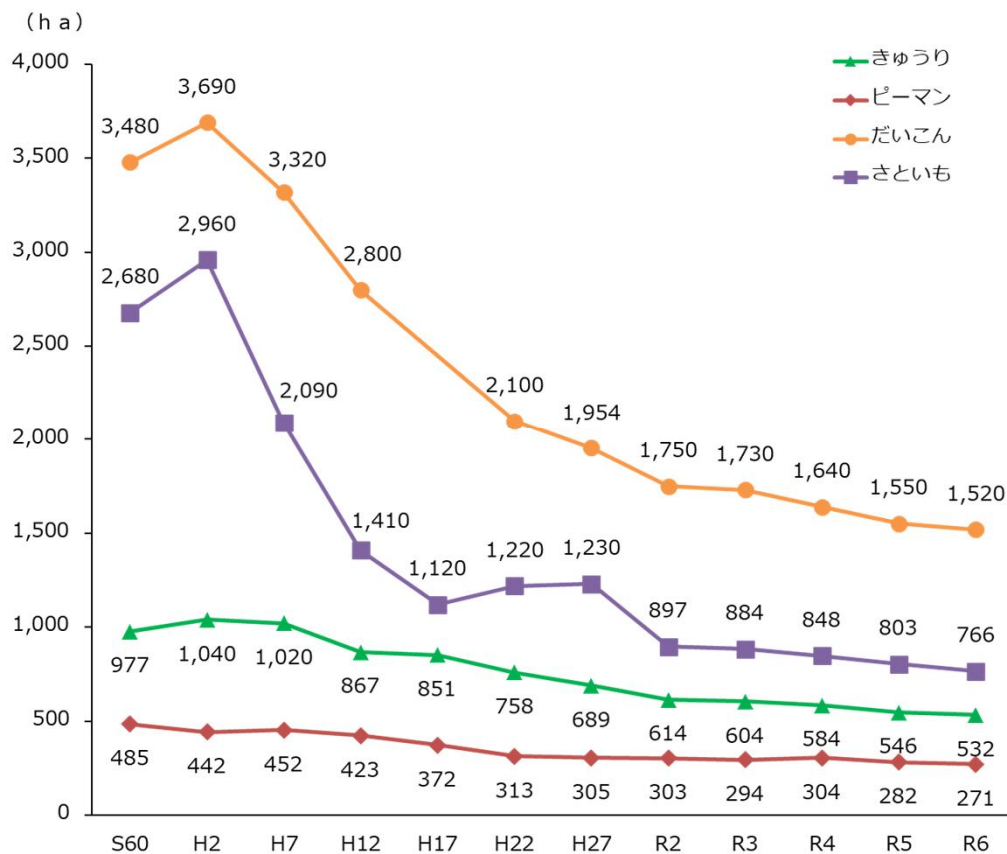
- 本県の野菜は、きゅうりやピーマン、トマト等の果菜類の周年供給体制が確立され、温暖な気候や標高差を活用した、さといも、かんしょ、ごぼう等の根菜類や、ほうれんそう等の葉菜類などの産地が形成され、全国有数の野菜産地を形成しています。
- 令和6年の野菜全体の産出額は756億円です。
- 担い手の減少や輸入野菜の影響等により、作付面積は減少傾向にあります。



◆ 野菜の生産量、作付面積、産出額の推移



◆ 主要品目の作付面積の推移

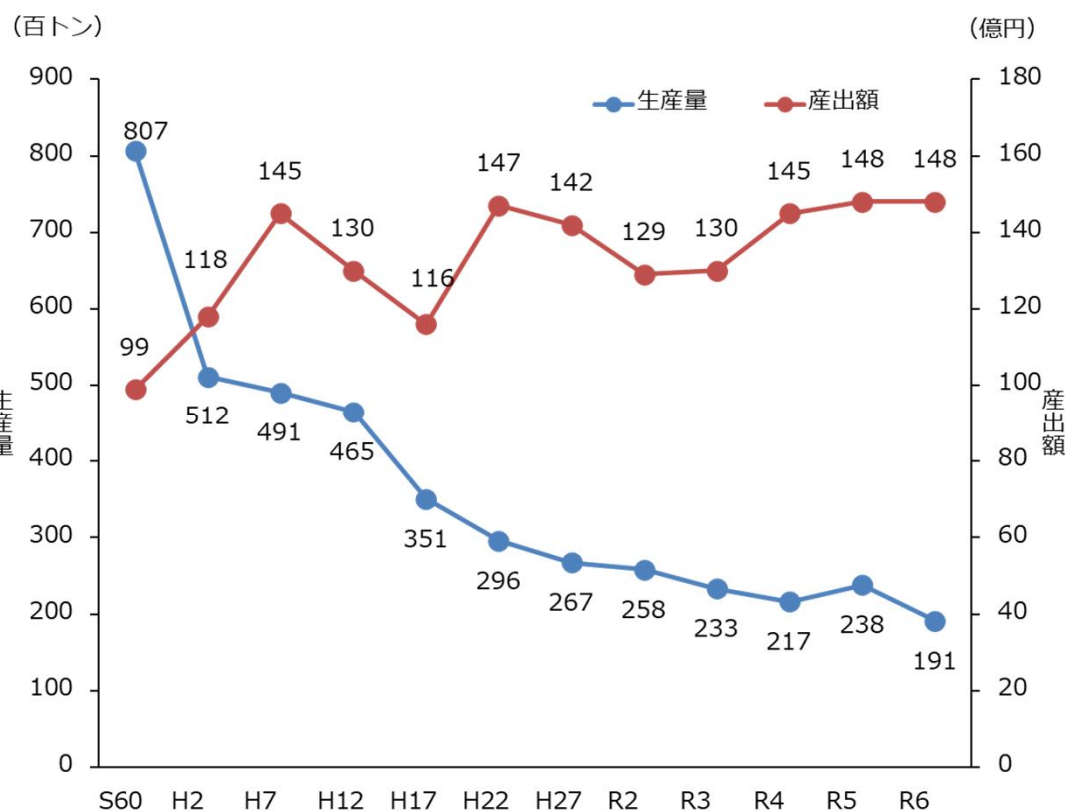


6-③. 主な品目の生産(果樹)

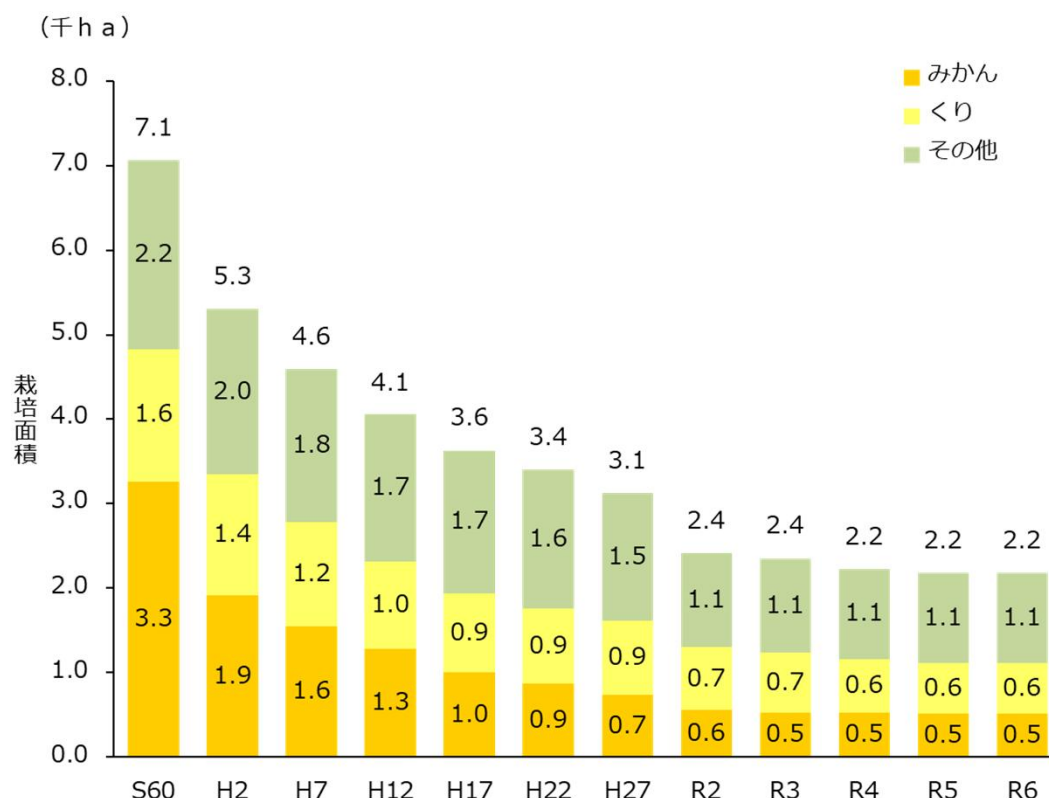
- 本県の果樹は、温暖な気候条件を生かし、マンゴーやきんかん、日向夏などの品目が県内全地域で栽培されており、完熟マンゴー「太陽のタマゴ」や完熟きんかん「たまたま」は本県の果樹ブランドの柱となっています。
- 生産量・栽培面積が減少傾向の中、付加価値の高い商品開発により産出額は横ばい傾向です。
- 近年では、本県原産の香酸かんきつ「へべす」栽培を平成30年春から県域に拡大したほか、次世代の果樹ブランドとして、「ライチ」の生産が増加傾向にあります。



◆ 果樹の生産量、産出額の推移



◆ 果樹の栽培面積の推移

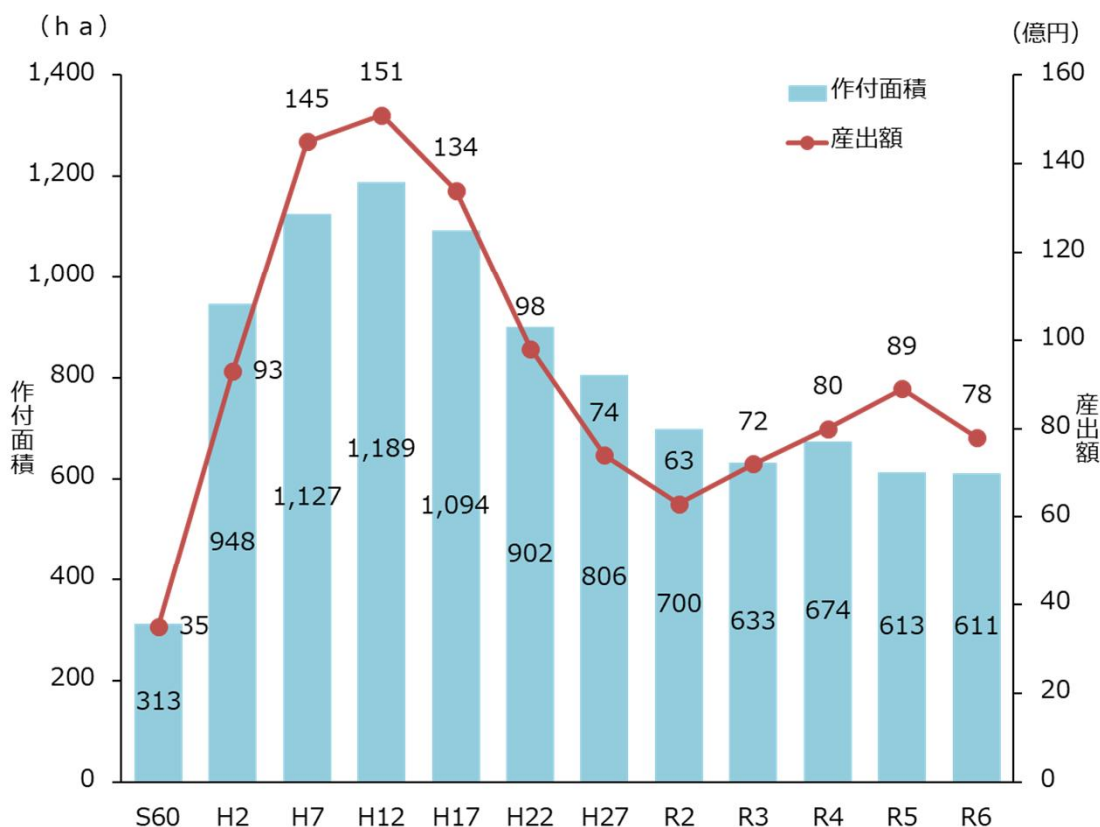


6-④. 主な品目の生産(花き)

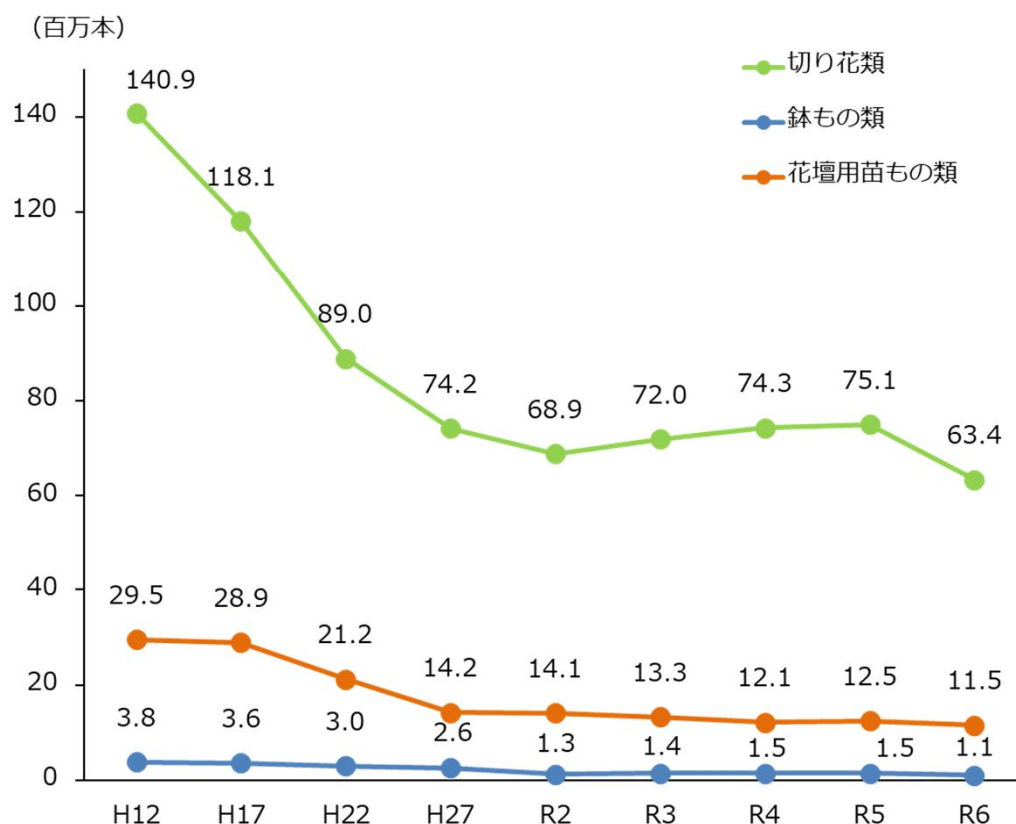
- 本県の花きは、冬期温暖で多日照な気候や中山間地域の昼夜温度差を生かした栽培が行われ、特にスイートピーやラナンキュラス、コチョウラン(鉢物)の全国有数の産地になっています。
- 作付面積が減少する一方、近年は需要が回復しつつあり、令和6年の産出額は78億円です。
- ベビーハンズなどの新規品目の導入・定着とともに、スイートピーの輸出を促進しています。



◆ 花きの作付け面積、産出額の推移



◆ 出荷量の推移

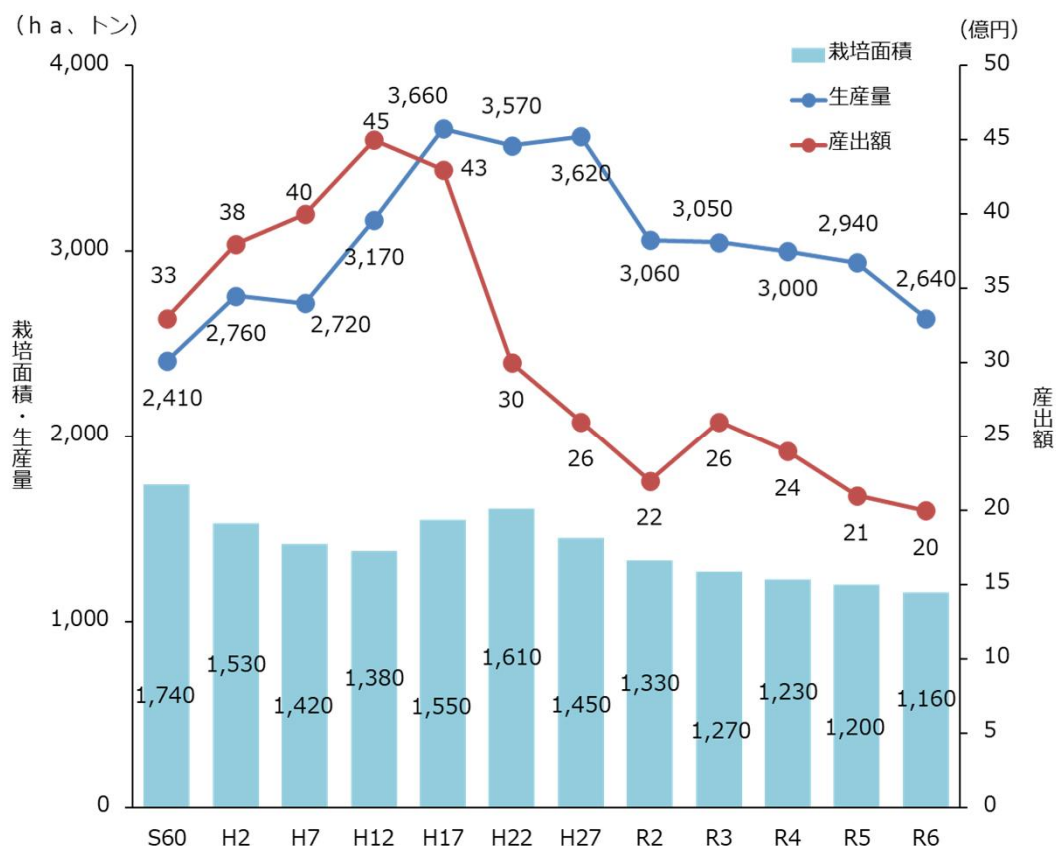


6-⑤. 主な品目の生産(工芸作物)

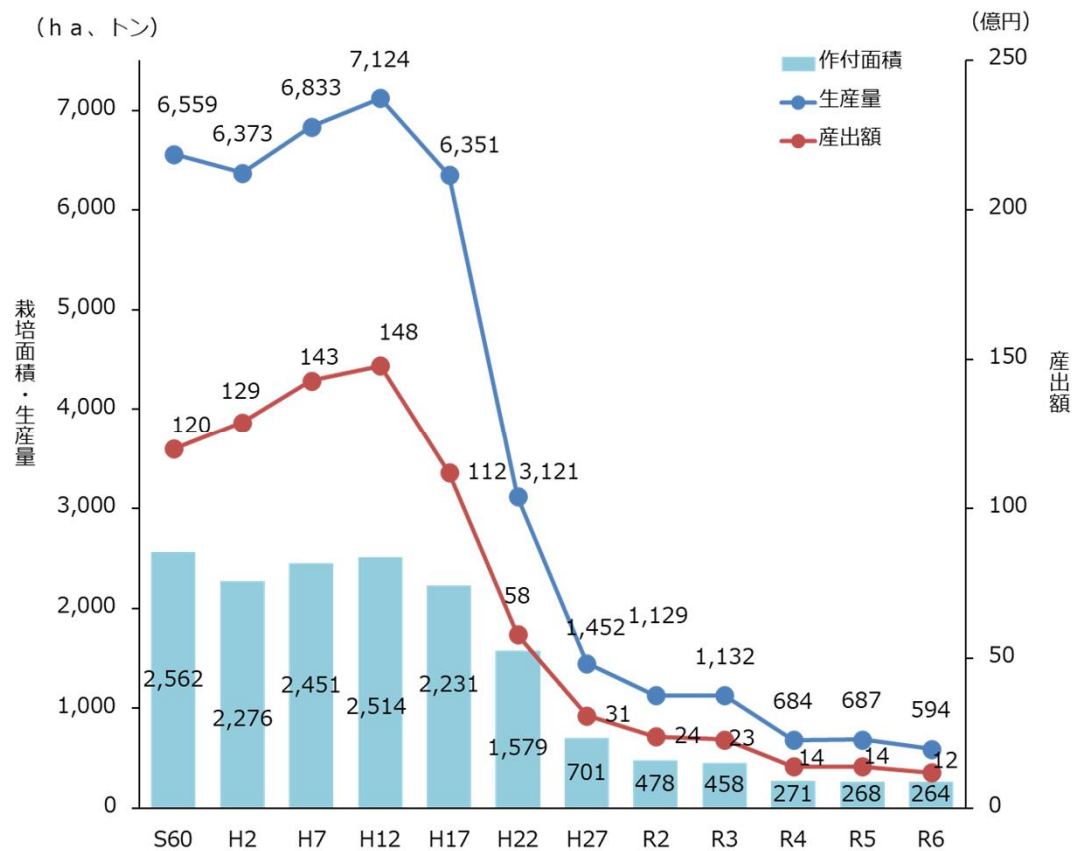
- 本県の茶は、平野部では煎茶、県北部の中山間地域では釜炒り茶を中心に産地が形成されており、令和6年の栽培面積は1,160ha、生産量は2,640トン、産出額は20億円です。
- 本県の葉たばこは土地利用型作物の基幹品目となっておりますが、平成24年の廃作奨励以後は面積、生産量ともに減少傾向で、令和6年の産出額は12億円となっています。



◆ 茶の栽培面積、生産量、産出額の推移



◆ 葉たばこの栽培面積、生産量、産出額の推移

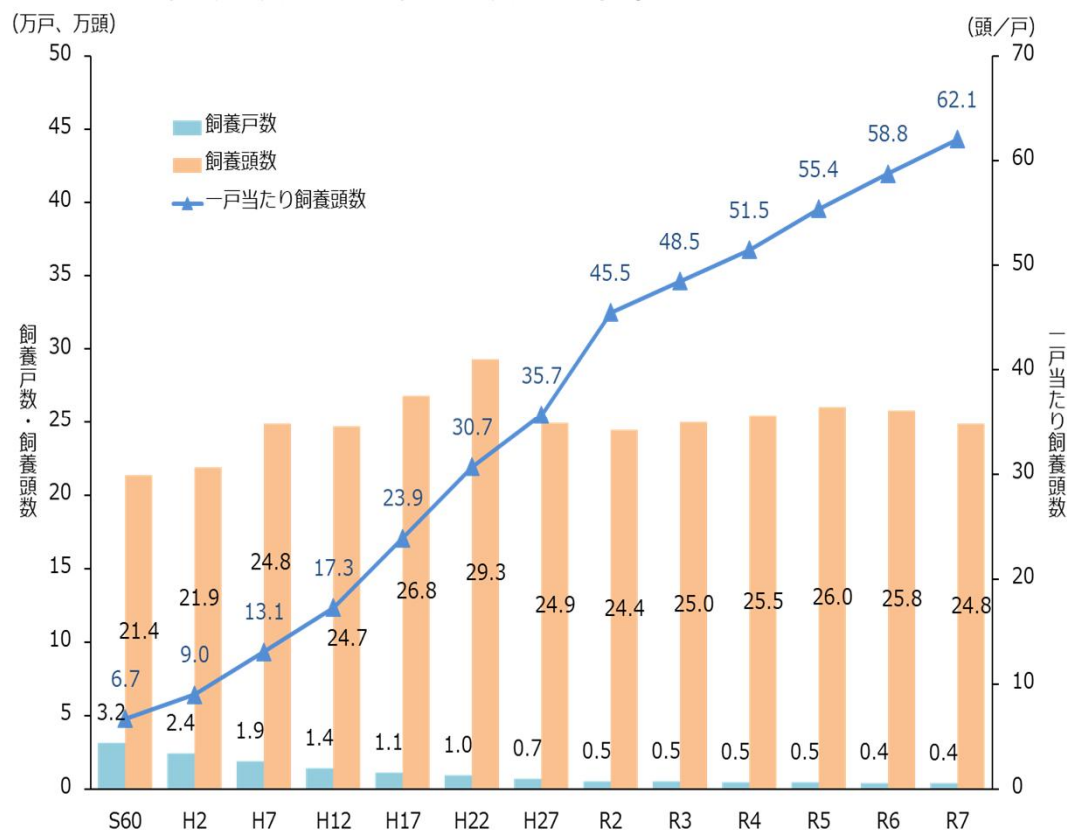


6-⑥. 主な品目の生産(肉用牛)

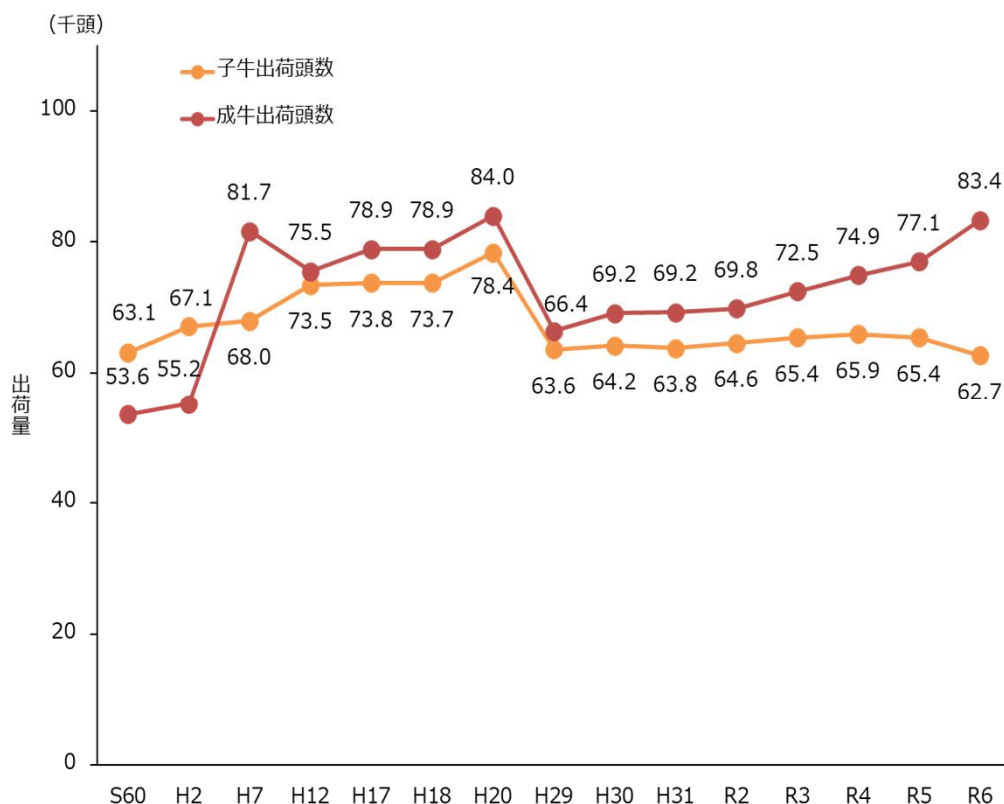
- 肉用牛の飼養頭数は、平成22年に発生した口蹄疫の影響等により、平成23年に減少したものの翌年には増加に転じ、令和7年2月1日現在で24万8,400頭（全国3位）、うち黒毛和種は22万600頭（全国2位）、繁殖雌牛は8万900頭（全国2位）となっています。
- 本県を代表するブランドの宮崎牛は、令和4年10月に鹿児島県で開催された「第12回全国和牛能力共進会」で、史上初となる4大会連続の内閣総理大臣賞を受賞しています。（第1回全共から第12回全共までで通算5回の受賞は全国最多）



◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移



◆ 出荷頭数の推移

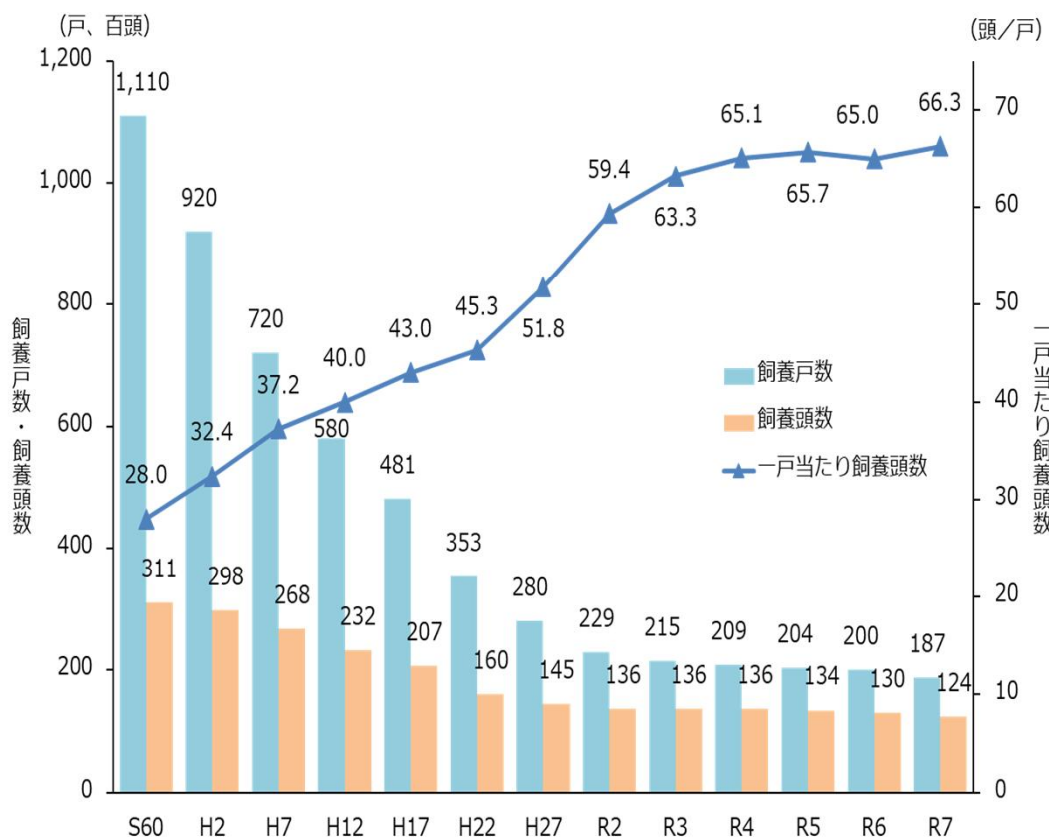


6-⑦. 主な品目の生産(酪農)

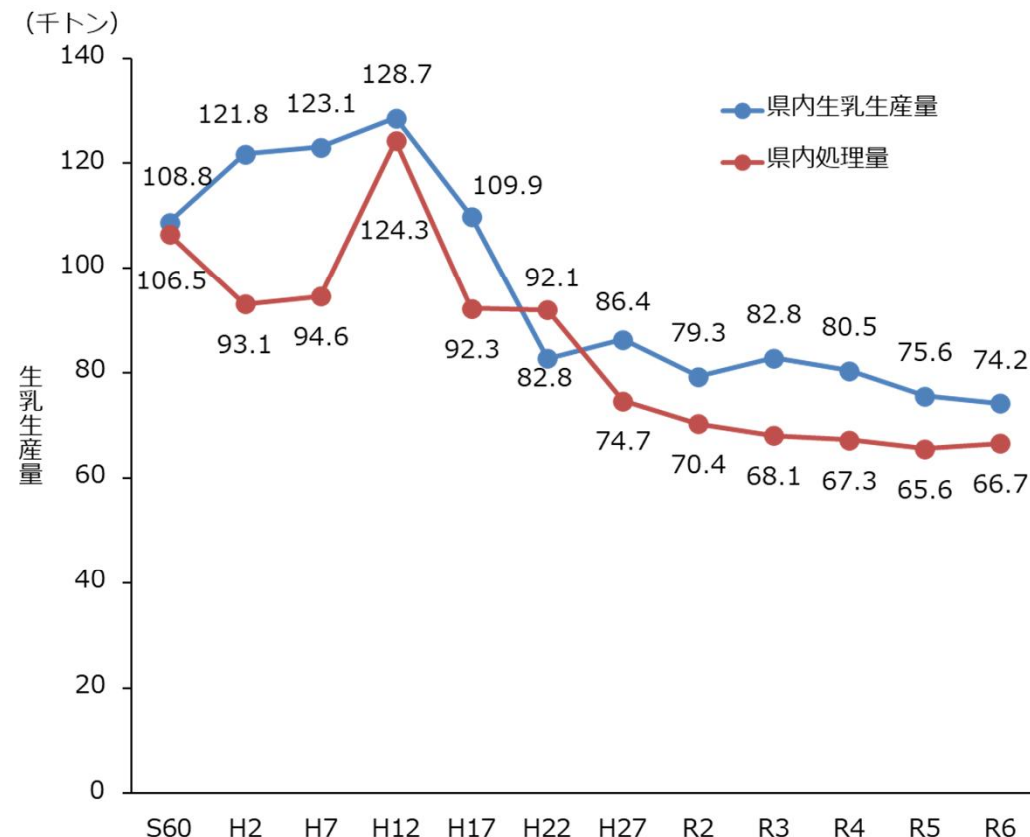
- 本県の酪農は、飼料費・資材費等の生産コストの上昇による経営悪化や酪農家の高齢化・担い手不足等により飼養戸数は減少傾向にあります。令和7年の1戸あたりの飼養頭数は66.3頭と増加傾向にあります。
- 生乳生産量は、平成12年をピークに減少し、近年は横ばいで推移していましたが、令和6年は猛暑の影響により74,224tと前年比98.1%となりました。



◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移



◆ 生乳生産量の推移

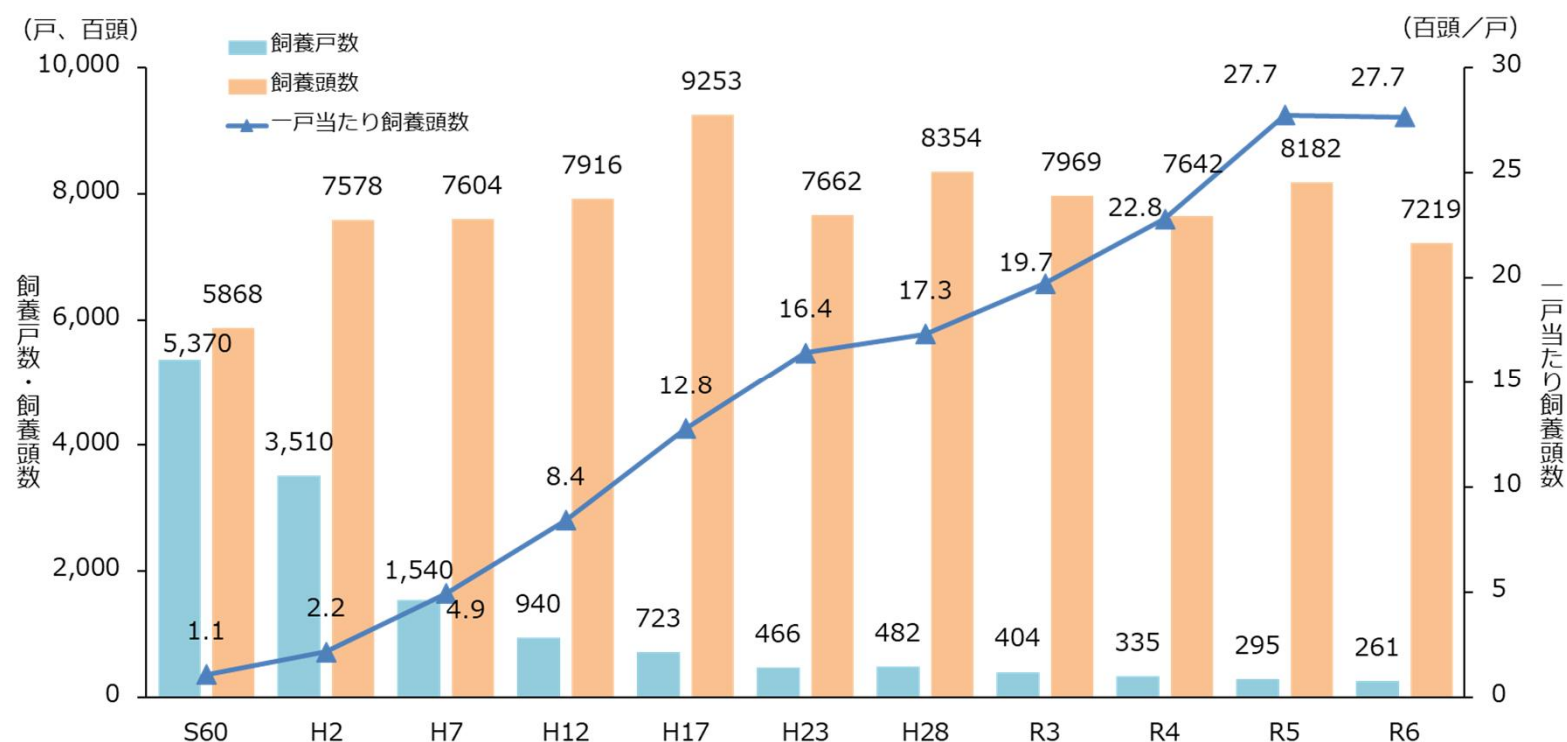


6-⑧. 主な品目の生産(豚)

- 豚の飼養頭数は、平成22年の口蹄疫の影響により平成23年は約76万頭まで落ち込み、その後回復したものの、令和6年は約72万頭（全国3位）となっています。
- 近年は農家戸数の減少傾向が続いており、令和6年の戸数は261戸となった一方、一戸当たりの規模拡大が進み、令和6年の一戸当たり飼養頭数は2,766頭となっています。
- 規模拡大に対応する生産体制の効率化として、地域内一貫生産体制やスリーサイト方式、オールイン・オールアウト方式の導入等に取り組む生産者が増えています。



◆ 飼養戸数・飼養頭数の推移



【用語解説】

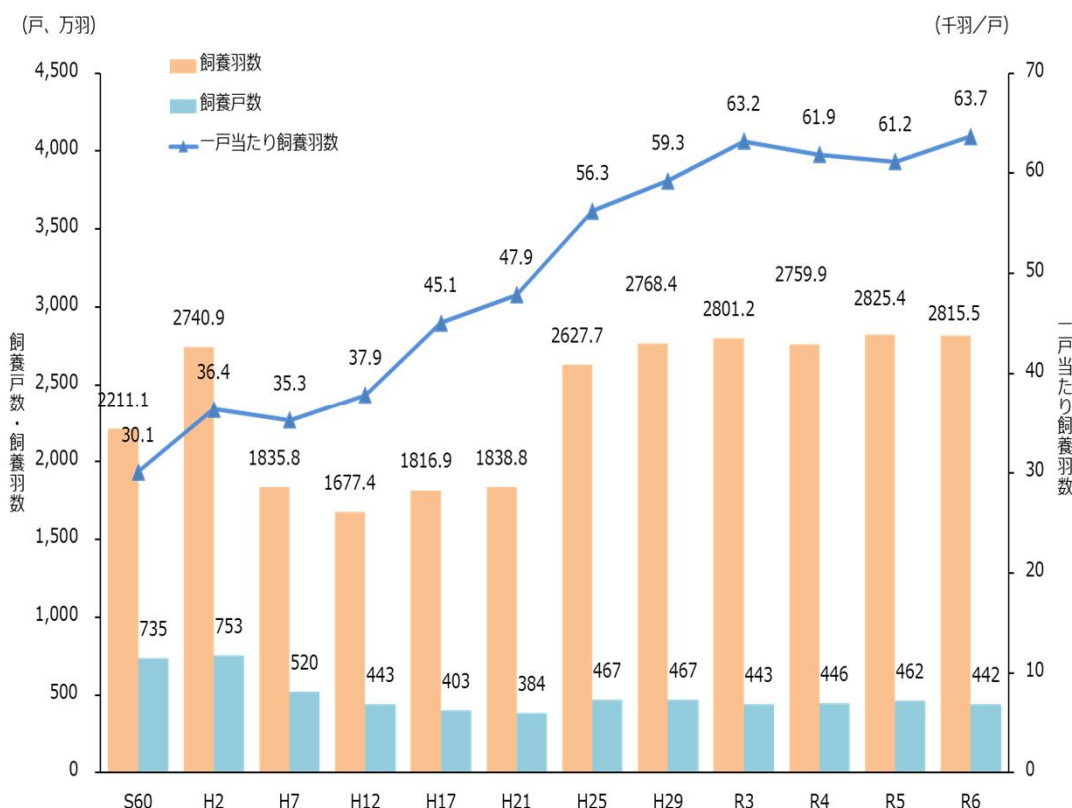
- ・スリーサイト方式：飼育する農場を、繁殖、哺乳育成、肥育の3つに分散させる生産方式
- ・オールイン・オールアウト方式：子豚を一斉に豚舎に入れて飼養した後、一斉に出荷する生産方式

6-⑨. 主な品目の生産（ブロイラー）

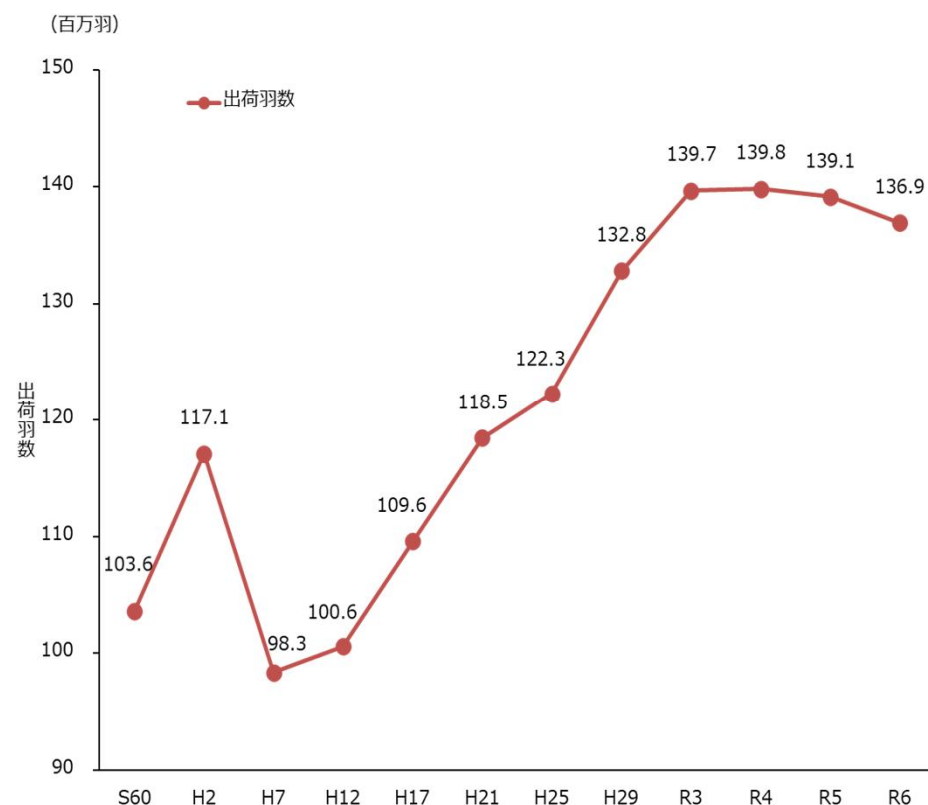
- 本県のブロイラーは、生産・流通に関わる様々な部門を統合した大規模生産・流通システムであるインテグレーション化が進んでおり、令和6年の飼養羽数は約2,816万羽（全国2位）となっています。
- 令和6年のブロイラー出荷羽数は1億3,692万羽（全国2位）であり、宮崎、鹿児島、岩手の3県で全国の57.2%を占めています。



◆ 飼養戸数・飼養羽数の推移



◆ 出荷羽数の推移

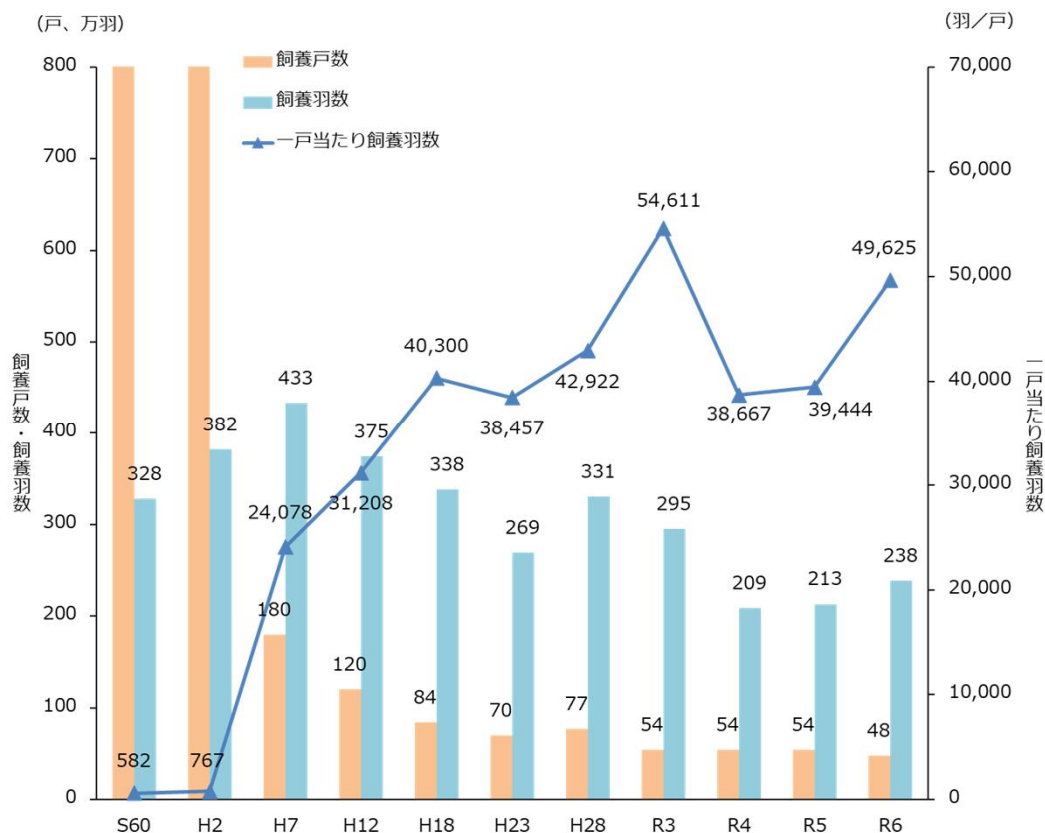


6-⑩. 主な品目の生産(採卵鶏)

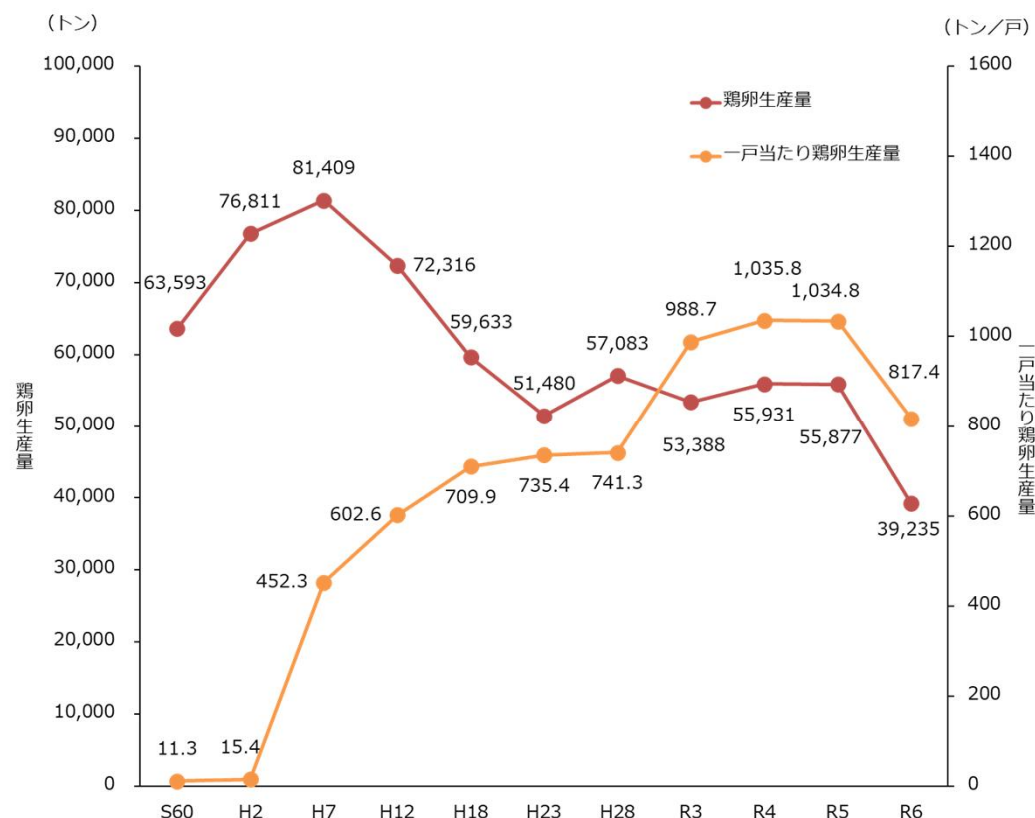
- 飼養戸数はほぼ横ばいですが、大規模な法人経営を中心に省力化に向けた施設整備が進められ、令和6年の一戸当たり飼養羽数は約5.0万羽です。
- 令和6年の鶏卵生産量は、戸数の減少や卵価の下落により、成鶏淘汰が進んだことに加え、飼料を含む生産資材の高騰により農場で生産を抑制したことにより減少し、3万9,235トンとなっています。



◆ 飼養戸数・飼養羽数の推移

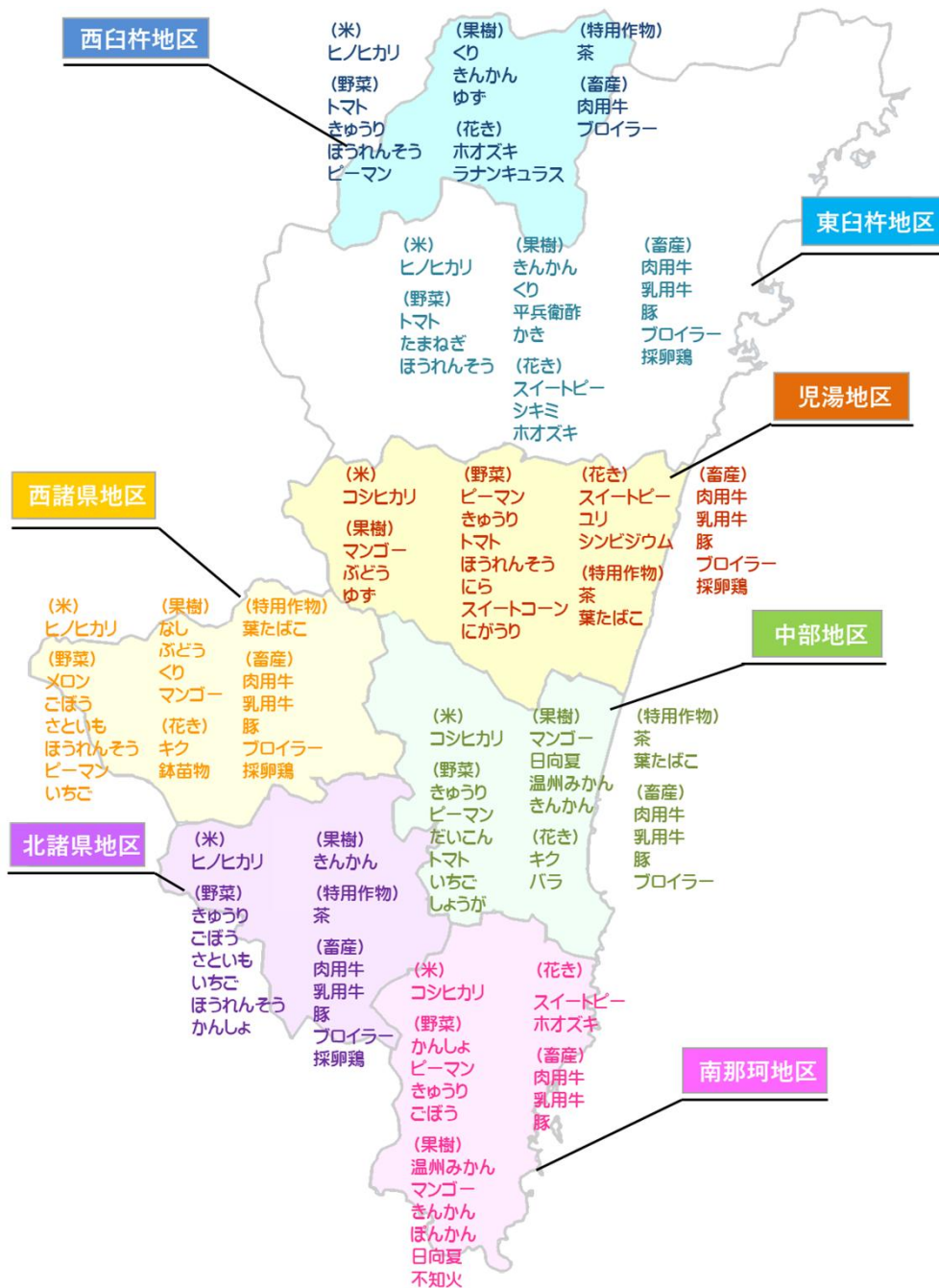


◆ 鶏卵生産量等の推移

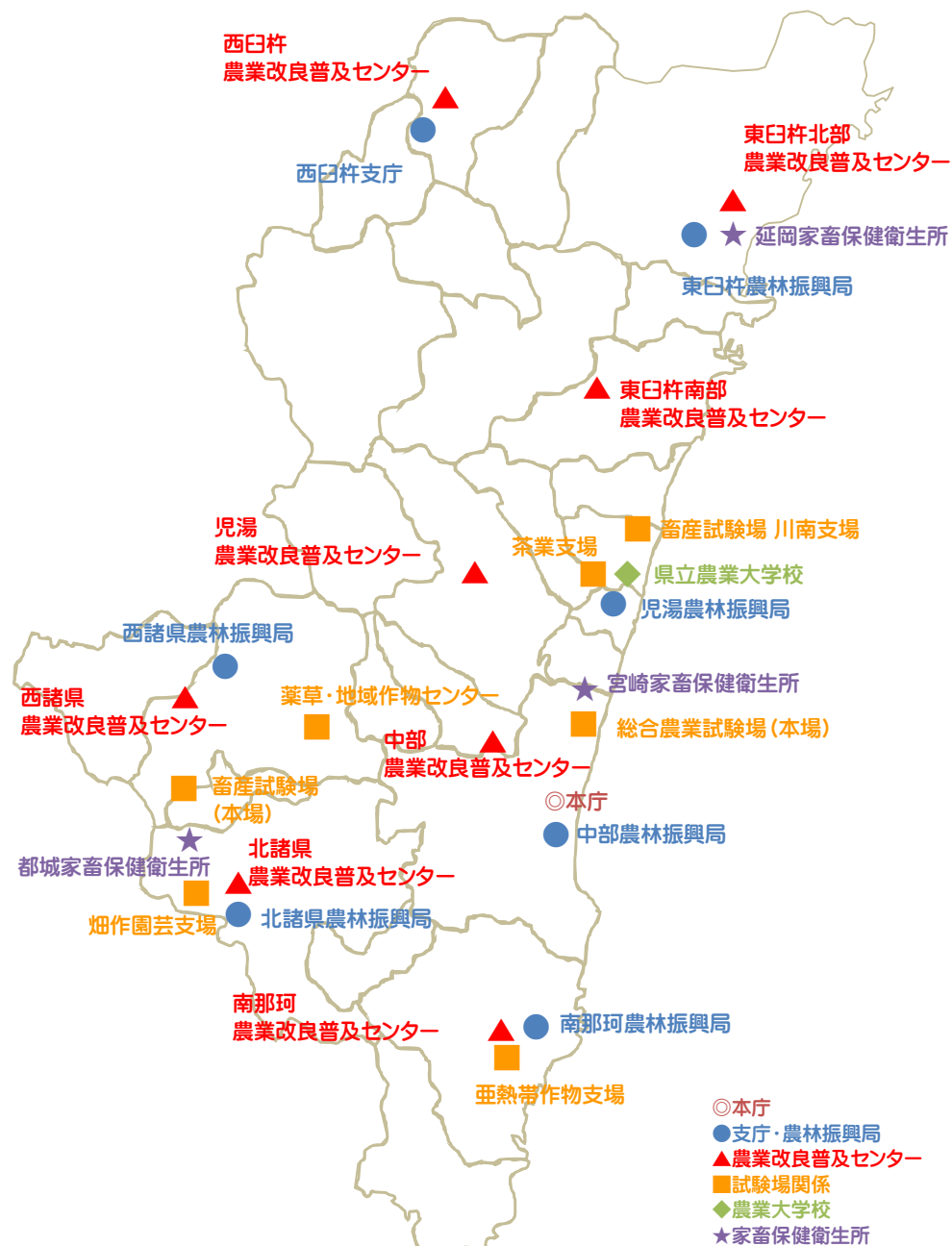


7. 地図でみる宮崎県の農畜産業

◆ 地域ごとの生産品目



◆ 県農政水産部の機関



◆ 宮崎の園芸



本県農業のうち、野菜、果樹、花きに関する情報をまとめた一冊です。

- ・品目毎の面積、生産規模
- ・振興方針
- ・関連する事業、交付金等
- ・県の育成品種

など

◆ 宮崎の畜産



本県農業のうち、畜産に関する情報をまとめた一冊です。

- ・みやざき畜産共創プラン
- ・畜種別飼養動向
- ・家畜衛生について
- ・県の試験研究

など

◆ 宮崎県水産業の動向と水産施策



本県水産業についてまとめた一冊です。

- ・海面・内水面の生産動向
- ・地域毎の特徴
- ・資源管理について
- ・関連施策

など

本県の農畜水産業に関する情報は、宮崎県ホームページまたは宮崎県農政水産部ホームページ「ひなたMAFiN」にて公開しています！

携帯電話やタブレットで下のQRコードを読み込むと、ご覧いただけます。

【宮崎県庁HP】



【ひなたMAFiN】

